



EDB Postgres™ Advanced Server

リリース **13**

Installation Guide for Windows

2020 年 11 月 29 日

目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	Requirements Overview	3
2.1	Windows インストールの前提条件	4
第 3 章	Installing Advanced Server with the Interactive Installer	5
3.1	Performing a Graphical Installation on Windows	7
3.2	Invoking the Graphical Installer from the Command Line	22
3.2.1	Performing an Unattended Installation	23
3.2.2	Performing an Installation with Limited Privileges	24
3.2.3	Reference - Command Line Options	26
3.3	Using StackBuilder Plus	35
3.4	Installation Troubleshooting	39
第 4 章	Connecting to Advanced Server with the pgAdmin 4 Client	41
第 5 章	Managing an Advanced Server Installation	45
5.1	AdvancedServer とサポートコンポーネントの起動と停止	45
5.1.1	Using the Windows Services Applet	46
5.1.2	Using pg_ctl to Control Advanced Server	47
5.1.3	Controlling Server Startup Behavior on Windows	47
第 6 章	Configuring Advanced Server	49
6.1	Setting Advanced Server Environment Variables	50
6.2	Connecting to Advanced Server with edb-psql	52
第 7 章	Uninstalling Advanced Server	53
7.1	コマンドラインでの AdvancedServerUninstaller の使用	53
第 8 章	Conclusion	55
	索引	57

第 1 章

はじめに

EDBPostgresAdvancedServer インストールガイドは、EDBPostgresAdvancedServer (AdvancedServer) をインストールするための包括的なガイドです。このガイドには、次の詳細情報が記載されています。

- Windows で AdvancedServer13 をインストールするためのソフトウェア前提条件。
- Windows の対話型セットアップウィザードを介して利用可能なグラフィカルインストールオプション。
- AdvancedServer インストールの管理。
- AdvancedServer パッケージのインストールの構成。
- AdvancedServer とそのコンポーネントのアンインストール。

第 2 章

Requirements Overview

AdvancedServer がサポートするプラットフォームとバージョンについては、次の EDBWeb サイトにアクセスしてください。

<https://www.enterprisedb.com/services-support/edb-supported-products-and-platforms#epas>

Limitations

EDBPostgresAdvancedServer には次の制限が適用されます。

- 本番データベースの data ディレクトリは、NFS ファイルシステムに保存しないでください。

2.1 Windows インストールの前提条件

User Privileges

Windows システムで AdvancedServer のインストールを実行するには、管理者権限が必要です。User Account Control が有効に設定された Windows システムに AdvancedServer をインストールする場合、インストーラーの名前を右クリックし、コンテキストメニューから Run as administrator を選択することにより、グラフィカルインストーラーを起動するための十分な権限を引き受けることができます。

Windows-specific Software Requirements

AdvancedServer インストーラーを起動する前に、Windows オペレーティングシステムの更新を適用する必要があります。（インストールプロセス中に）インストーラーでエラーが発生した場合は、インストールを終了し、インストーラーを再起動する前に Windows のバージョンが最新であることを確認してください。

Migration Toolkit or EDB*Plus Installation Pre-requisites

StackBuilderPlus を使用して MigrationToolkit または EDB*Plus をインストールする前に、最初に Java（バージョン 1.8 以降）をインストールする必要があります。Windows を使用している場合、Java インストーラーと手順はオンラインで利用できます:

<http://www.java.com/en/download/manual.jsp>

第 3 章

Installing Advanced Server with the Interactive Installer

AdvancedServer インタラクティブインストーラーを使用して、Windows に AdvancedServer をインストールできます。対話型インストーラーは、EDBWeb サイトから入手できます。

<https://www.enterprisedb.com/advanced-downloads>

さまざまなインストールモードでグラフィカルインストーラーを呼び出して、AdvancedServer のインストールを実行できます。

- グラフィカルインストーラーの使用方法については、[Windows でのグラフィカルインストールの実行](#) を参照してください。
- 無人インストールの実行については、[無人インストールの実行](#) を参照してください。
- 制限された権限でインストールを実行する方法については、[制限された権限でのインストールの実行](#) を参照してください。
- インストーラーを起動するときに含めることができるコマンドラインオプションについては、[リファレンス-コマンドラインオプション](#) を参照してください。

インストール中に、グラフィカルインストーラーは TEMP 環境変数で指定された場所にいくつかの一時ファイルをコピーします。オプションで、TEMP 環境変数を変更することにより、一時ファイルの代替場所を指定できます。

コマンドラインからインストーラーを起動する場合、コマンドラインで変数の値を設定できます。次のコマンドを使用します。

```
SET TEMP=temp_file_location
```

ここで、temp_file_location は一時ファイルの代替場所を指定し、アクセス権を TEMP 環境変数と一致させる必要があります。

注釈: システムのアップグレードを実行するためにインストーラーを呼び出す場合、インストーラーは以前のインストール中に指定された構成オプションを保持します。

Setting Cluster Preferences during a Graphical Installation

インストール中に、グラフィカルインストーラーは PostgreSQL の `initdb` ユーティリティを呼び出してクラスターを初期化します。グラフィカルインストーラーを使用している場合、`INITDBOPTS` 環境変数を使用して `initdb` 設定を指定できます。グラフィカルインストーラーを呼び出す前に、コマンドラインで `INITDBOPTS` の値を設定し、1 つ以上のクラスターオプションを指定します。例:

```
SET INITDBOPTS= -k -E=UTF-8
```

インストーラーによっても提供される `INITDBOPTS` の値（インストールディレクトリを指定する `-D` オプションなど）を指定すると、グラフィカルインストーラーで指定された値は、`INITDBOPTS` で指定された場合に値に優先します。

`initdb` クラスター構成オプションの使用の詳細については、次の場所にある [PostgreSQLCoreDocumentation](https://www.postgresql.org/docs/current/static/app-initdb.html) を参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/current/static/app-initdb.html>

PostgreSQL コードキュメントに記載されているクラスター構成オプションに加えて、AdvancedServer は次の `initdb` オプションをサポートしています。

`--no-redwood-compat`

`--no-redwood-compat` キーワードを含めて、PostgreSQL モードでクラスターを作成するようサーバーに指示します。クラスターを PostgreSQL モードで作成すると、データベーススーパーユーザーの名前は `postgres`、デフォルトデータベースの名前は `postgres` になり、Oracle データベースと互換性のある AdvancedServer の機能はクラスターで使用できなくなります。

`--redwood-like`

Oracle 構文と互換性のある SQL ステートメントで、`LIKE`（または PostgreSQL 互換の `ILIKE`）演算子の後にエスケープ文字（空の文字列（`''`））を使用するようにサーバーに指示する `--redwood-like` キーワードを含めます。

`--icu-short-form`

`--icu-short-form` キーワードを含めて、クラスター内のすべてのデータベースに対してデフォルトの ICU（Unicode の国際コンポーネント）照合を使用するクラスターを作成します。Unicode 照合の詳細については、次から入手できる **EDBPostgresAdvancedServerGuide** を参照してください。

<https://www.enterprisedb.com/edb-docs>

3.1 Performing a Graphical Installation on Windows

グラフィカルインストールは、Windows システムに AdvancedServer13 をすばやく簡単にインストールする方法です。ウィザードのダイアログを使用して、システムおよびシステムの使用に関する情報を指定します。ダイアログを完了すると、セットアッププロセス中に行われた選択に基づいて、インストーラーがインストールを実行します。

ウィザードを起動するには、管理者権限が必要です。管理者特権を想定し、`edb-as13-server-13.x.x-x-windows-x64` 実行可能ファイルをダブルクリックします。

注釈: Windows の一部のバージョンに AdvancedServer をインストールするには、ファイルアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから `Run as Administrator` を選択して Administrator 特権でインストーラーを起動する必要があります。

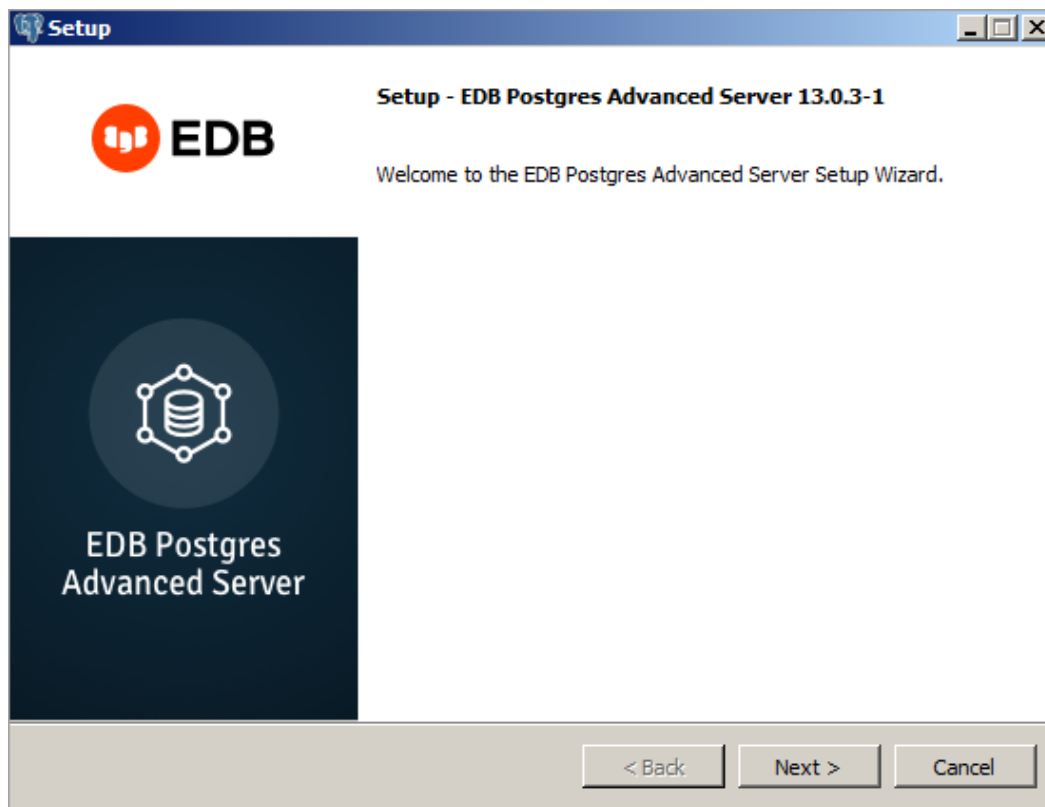


図 1 AdvancedServer インストーラーのようこそウィンドウ

Next をクリックして続行します。

EnterpriseDB License Agreement が開きます。

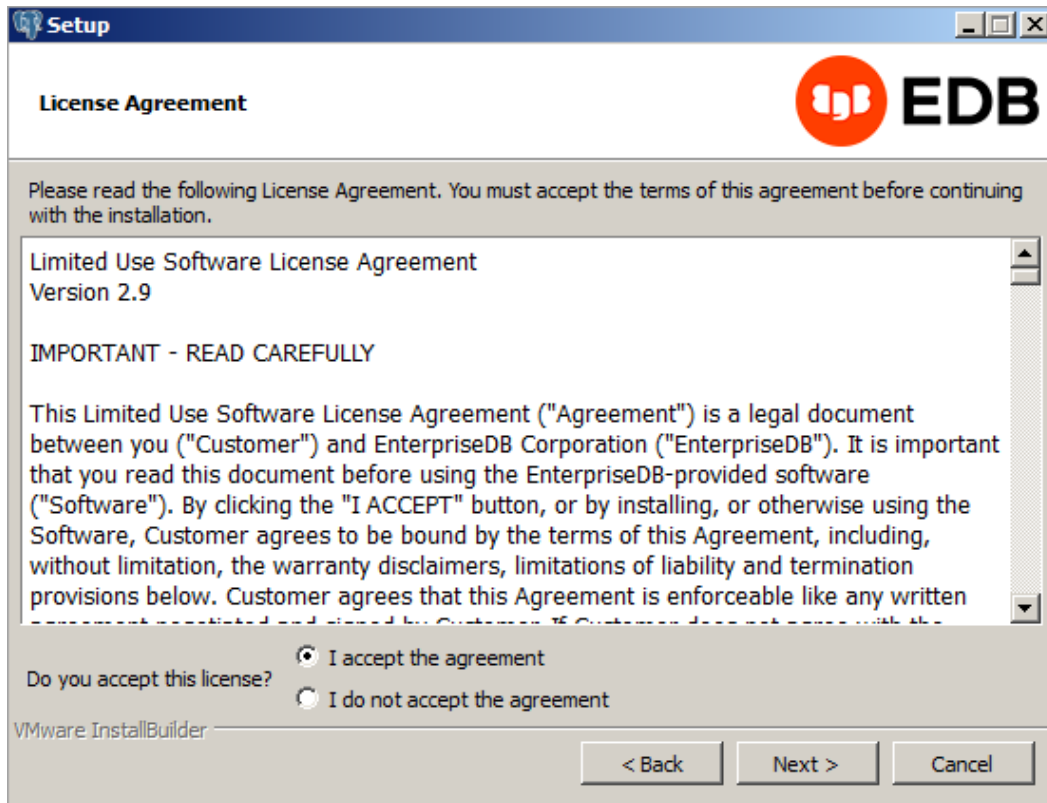


図 2 EnterpriseDB ライセンス契約

適切なラジオボタンを強調表示する前に、ライセンス契約を注意深く確認してください。Next をクリックして続行します。

Installation Directory ウィンドウが開きます。

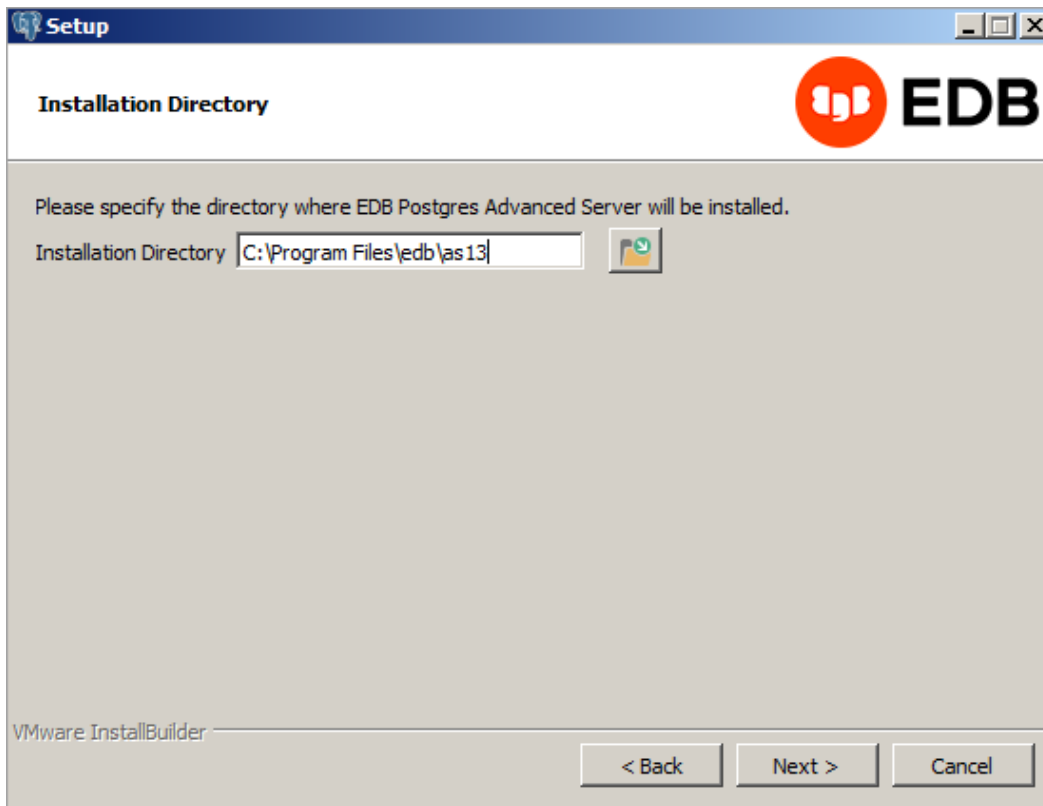


図 3 インストールディレクトリウィンドウ

デフォルトでは、AdvancedServer のインストールディレクトリは次のとおりです。

C:\Program Files\edb\as13

デフォルトのインストール場所を受け入れ、Next をクリックして続行するか、オプションで File Browser アイコンをクリックして Browse For Folder ダイアログを開き、代替インストールディレクトリを選択できます。

注釈: 本番データベースの data ディレクトリは、NFS ファイルシステムに保存しないでください。

Select Components ウィンドウには、AdvancedServer Setup ウィザードでインストールできるオプションのコンポーネントのリストが含まれています。コンポーネント名の横にあるボックスの選択を解除することにより、AdvancedServer のインストールからモジュールを省略することができます。

Setup ウィザードは、AdvancedServer13 のインストール中に次のコンポーネントをインストールできます。

EDB Postgres Advanced Server

AdvancedServer13 をインストールするには、EDB Postgres Advanced Server オプションを選択し

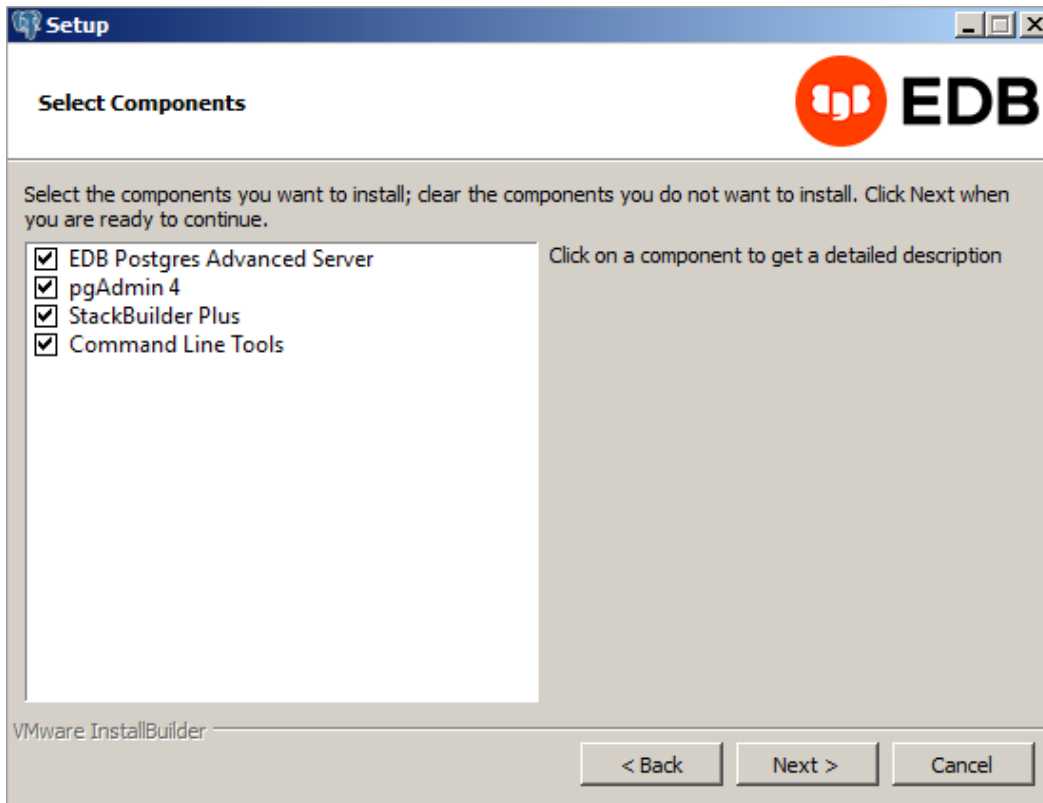


図 4 コンポーネントの選択ウィンドウ

ます。

pgAdmin 4

pgAdmin 4 オプションを選択して、pgAdmin4 クライアントをインストールします。pgAdmin4 は、データベースの管理と監視のための強力なグラフィカルインターフェイスを提供します。

StackBuilder Plus

StackBuilder Plus ユーティリティは、インストールされている製品を更新したり、AdvancedServer のセットアップとインストールが完了した後にサポートモジュール（および結果の依存関係）をダウンロードして追加したりできるグラフィカルツールです。StackBuilderPlus の詳細については、[StackBuilderPlus の使用](#) を参照してください。

Command Line Tools

Command Line Tools オプションは、コマンドラインツールとサポートクライアントライブラリをインストールします。

- libpq
- psql

- EDB*Loader
- ecpgPlus
- pg_basebackup、pg_dump、および pg_restore
- pg_bench
- など。

注釈: AdvancedServer または pgAdmin4 をインストールする場合、Command Line Tools が必要です。

インストールするコンポーネントを選択したら、Next をクリックして Additional Directories ウィンドウを開きます。

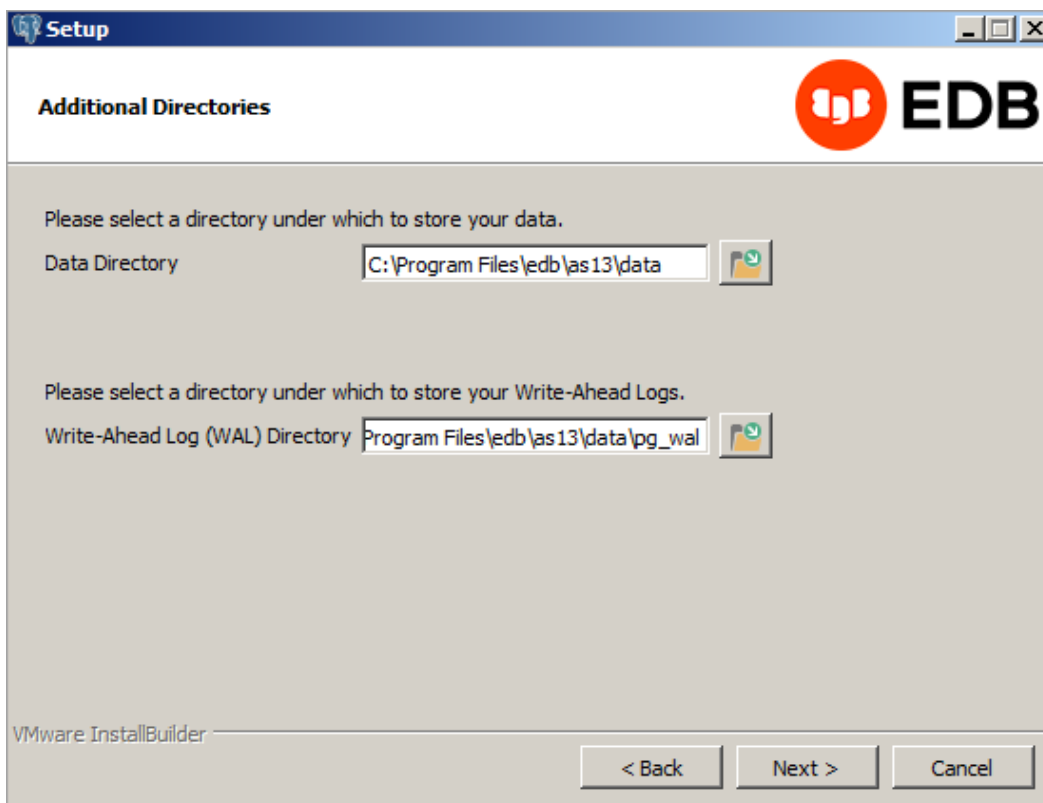


図 5 /追加ディレクトリ/ ウィンドウ

デフォルトでは、AdvancedServer の data ファイルは次の場所に保存されます。

C:\Program Files\edb\as13\data

AdvancedServer Write-Ahead Log (WAL) Directory のデフォルトの場所は次のとおりです。

`C:\Program Files\edb\as13\data\pg_wal`

AdvancedServer は、先書きログを使用してトランザクションの安全性を促進し、トランザクション処理を高速化します。テーブルに変更を加えると、その変更は共有メモリに保存され、変更の記録が先行書き込みログに書き込まれます。COMMIT を実行すると、AdvancedServer は先書きログの内容をディスクに書き込みます。

デフォルトのファイルの場所を受け入れるか、File Browser アイコンを使用して別の場所を選択します。Next をクリックして Advanced Server Dialect ウィンドウに進みます。

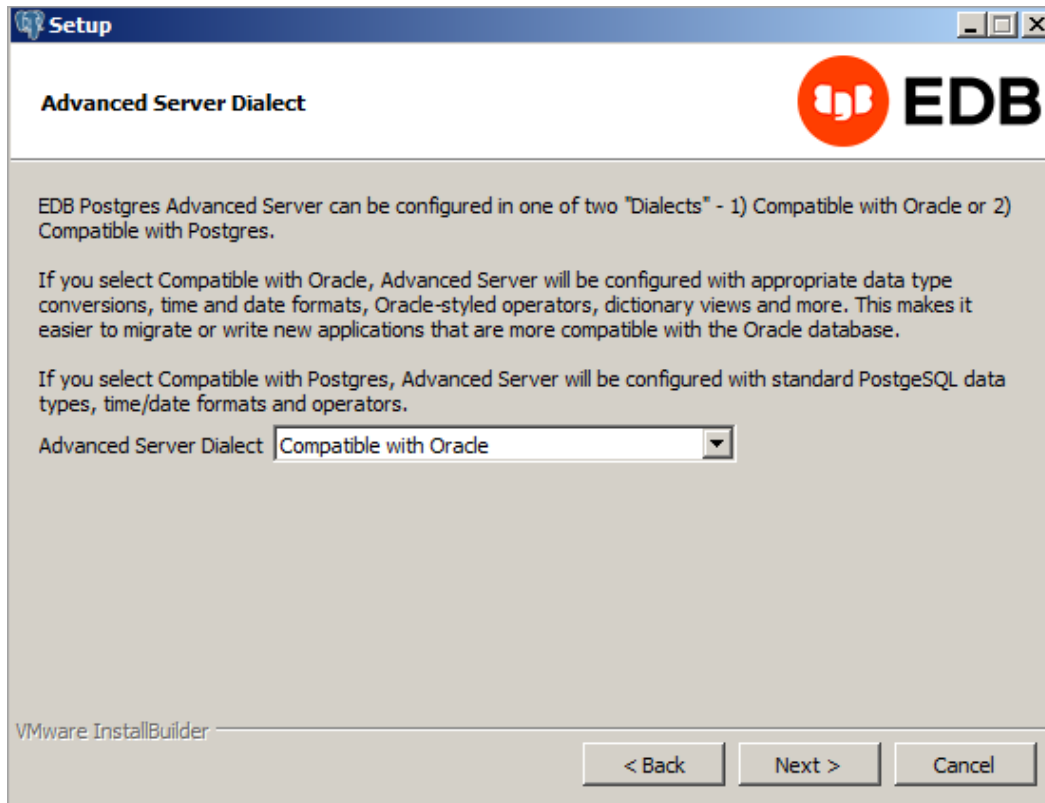


図 6 AdvancedServerDialect ウィンドウ

Advanced Server Dialect ウィンドウのドロップダウンリストボックスを使用して、サーバーの方言を選択します。サーバーの方言は、AdvancedServer がサポートする互換機能を指定します。

デフォルトでは、AdvancedServer は Compatible with Oracle モードでインストールされます。Compatible with Oracle と Compatible with PostgreSQL のインストールモードから選択できます。

Compatible with Oracle

Compatible with Oracle を選択すると、インストールには次の機能が含まれます。

- Oracle データベースと互換性のあるデータディクショナリビュー。
- Oracle データ型の変換。

- Oracle 構文と互換性のある形式で表示される日付値。
- Oracle スタイルの連結ルールのサポート（文字列値を NULL 値と連結する場合、返される値は文字列の値です）。
- SEARCH_PATH に追加された Oracle データベースと互換性のあるスキーマ（dbo および sys）。
- 次の Oracle ビルトインパッケージのサポート:

パッケージ	OracleDatabase と互換性のある機能
dbms_alert	アラートを登録、送信、および受信する機能を提供します。
dbms_job	ジョブの作成、スケジューリング、および管理の機能を提供します。
dbms_lob	大きなオブジェクトを管理する機能を提供します。
dbms_output	メッセージをメッセージバッファに送信する機能、またはメッセージバッファからメッセージを取得する機能を提供します。
dbms_pipe	同じデータベースクラスターに接続されたセッション内またはセッション間でパイプを介してメッセージを送信する機能を提供します。
dbms_ols	特定の AdvancedServer データベースオブジェクトで仮想プライベートデータベースの実装を有効にします。
dbms_sql	EDB 動的 SQL 機能へのアプリケーションインターフェイスを提供します。
dbms_utility	さまざまなユーティリティプログラムを提供します。
dbms_aqadm	AdvancedQueuing 機能のサポート手順を提供します。
dbms_aq	AdvancedServer のメッセージキューと処理を提供します。
dbms_profiler	パフォーマンスプロファイリングセッション中に実行される PL/pgSQL および SPL ステートメントに関するパフォーマンス情報を収集して保存します。
dbms_random	ランダムな値を生成する多くのメソッドを提供します。
dbms_redact	クエリによって返されるデータの編集またはマスキングを有効にします。
dbms_lock	DBMS_LOCK.SLEEP 手順のサポートを提供します。
dbms_scheduler	ジョブ、プログラム、およびジョブスケジュールを作成および管理する方法を提供します。
dbms_crypto	RAW、BLOB または CLOB データを暗号化または復号化するための関数と手順を提供します。DBMS_CRYPTO 関数を使用して、暗号的に強力なランダム値を生成することもできます。
dbms_mview	マテリアライズドビューとその依存関係を管理および更新する方法を提供します。
dbms_session	DBMS_SESSION.SET_ROLE 手順のサポートを提供します。
utl_encode	データをエンコードおよびデコードする方法を提供します。
utl_http	HTTP または HTTPS プロトコルを使用して、URL で見つかった情報を取得する方法を提供します。
utl_file	オペレーティングシステムのファイルシステム上のファイルを読み書きする機能を提供します。
utl_smtp	簡易メール転送プロトコル (SMTP) を介して電子メールを送信する機能を提供します。
utl_mail	電子メールを管理する機能を提供します。
utl_url	URL 内の不正な予約文字をエスケープする方法を提供します。
utl_raw	生データ型の長さを操作または取得する方法を提供します。

これは、AdvancedServer が Compatible with Oracle モードでインストールされている場合に含まれる Oracle の互換性機能の包括的なリストではありません。詳細については、EDBWeb サイトから入手できる*OracleDeveloper'sGuide のデータベース互換性*を参照してください。

<https://www.enterprisedb.com/edb-docs>

Compatible with Oracle モードでインストールすることを選択した場合、AdvancedServer のスーパーユーザー名は enterprisedb です。

Compatible with PostgreSQL

Compatible with PostgreSQL を選択すると、AdvancedServer は PostgreSQL バージョン 13 との互換性を示します。Compatible with PostgreSQL モードでインストールすることを選択した場合、デフォルトの AdvancedServer スーパーユーザー名は postgres です。

PostgreSQL の機能の詳細については、公式の PostgreSQLWeb サイトにアクセスしてください。

<http://www.postgresql.org>

設定モードを指定した後、Next をクリックして Password ウィンドウに進みます。

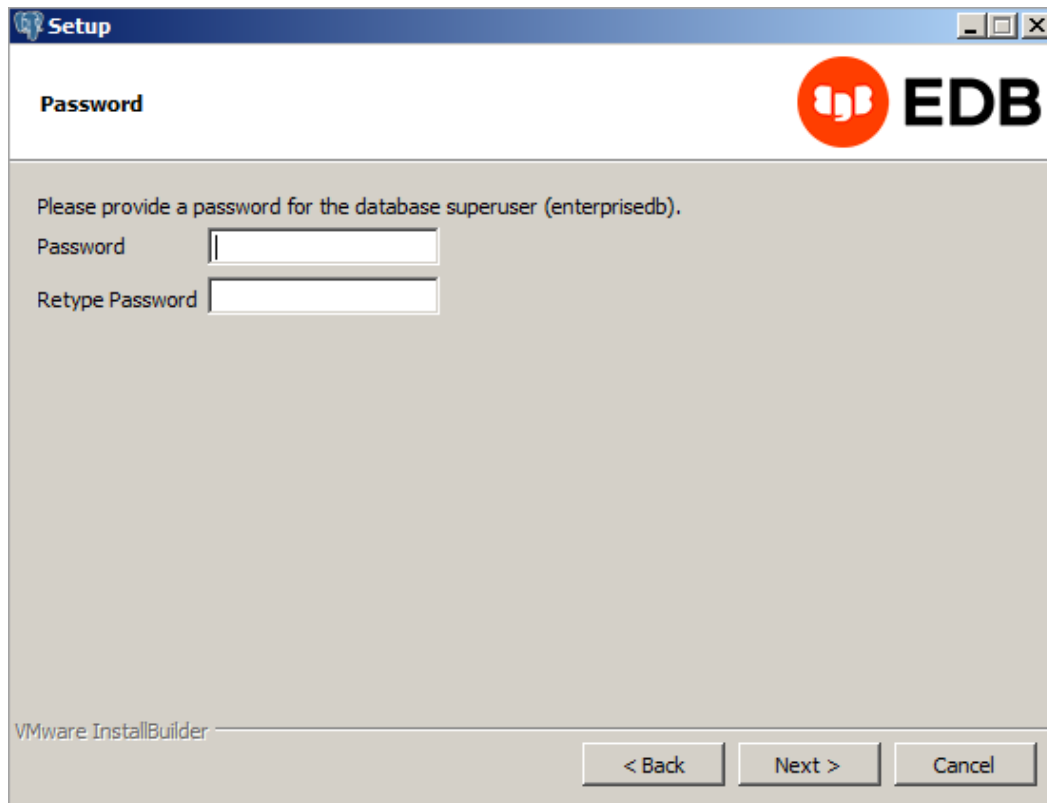


図7 パスワードウィンドウ

AdvancedServer は、データベーススーパーユーザーの Password ウィンドウで指定されたパスワードを使用します。指定されたパスワードは、AdvancedServer ホストに存在するセキュリティポリシーに準拠する必要があります。

Password フィールドにパスワードを入力したら、Retype Password フィールドでパスワードを確認し、Next をクリックして続行します。

Additional Configuration ウィンドウが開きます。

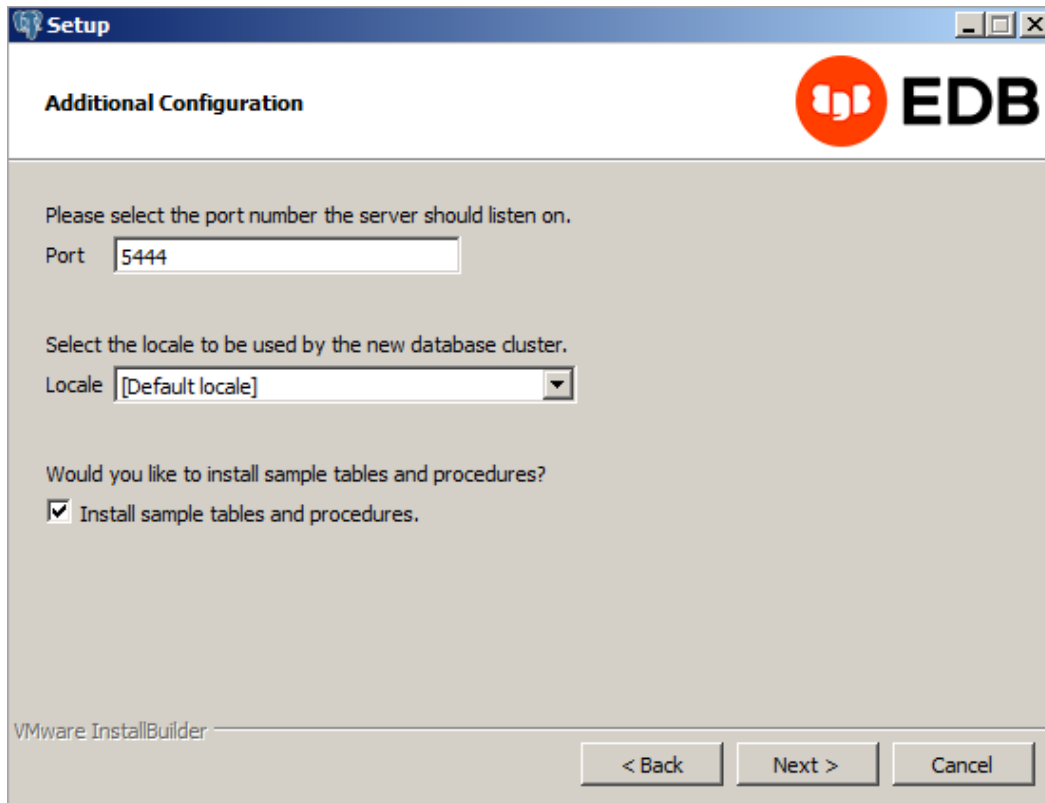


図 8 追加設定ウィンドウ

Additional Configuration ウィンドウのフィールドを使用して、インストールの詳細を指定します。

- Port フィールドを使用して、AdvancedServer がクライアントアプリケーションからの接続要求をリスンするポート番号を指定します。デフォルトは 5444 です。
- Locale フィールドが [Default locale] に設定されている場合、AdvancedServer はシステムロケールを作業ロケールとして使用します。Locale の横にあるドロップダウンリストボックスを使用して、AdvancedServer の代替ロケールを指定します。
- デフォルトでは、Setup ウィザードは、互換モード (Oracle または PostgreSQL) で指定されたサーバーダイレクトに対応するサンプルデータをインストールします。サンプルデータをインストールしない場合は、Install sample tables and procedures の横のチェックボックスをオフにします。

Additional Configuration ウィンドウの情報を確認したら、Next をクリックして Dynatune Dynamic Tuning:Server Utilization ウィンドウを開きます。

グラフィカルな Setup ウィザードは、DynatuneDynamicTuning 機能を介したパフォーマンスチューニングを容易にします。Dynatune 機能により、AdvancedServer は、インストールされているホストマシンで利用可能なシステムリソースを最適に使用できます。

edb_dynatune 構成パラメータは、AdvancedServer がシステムリソースを割り当てる方法を決定します。

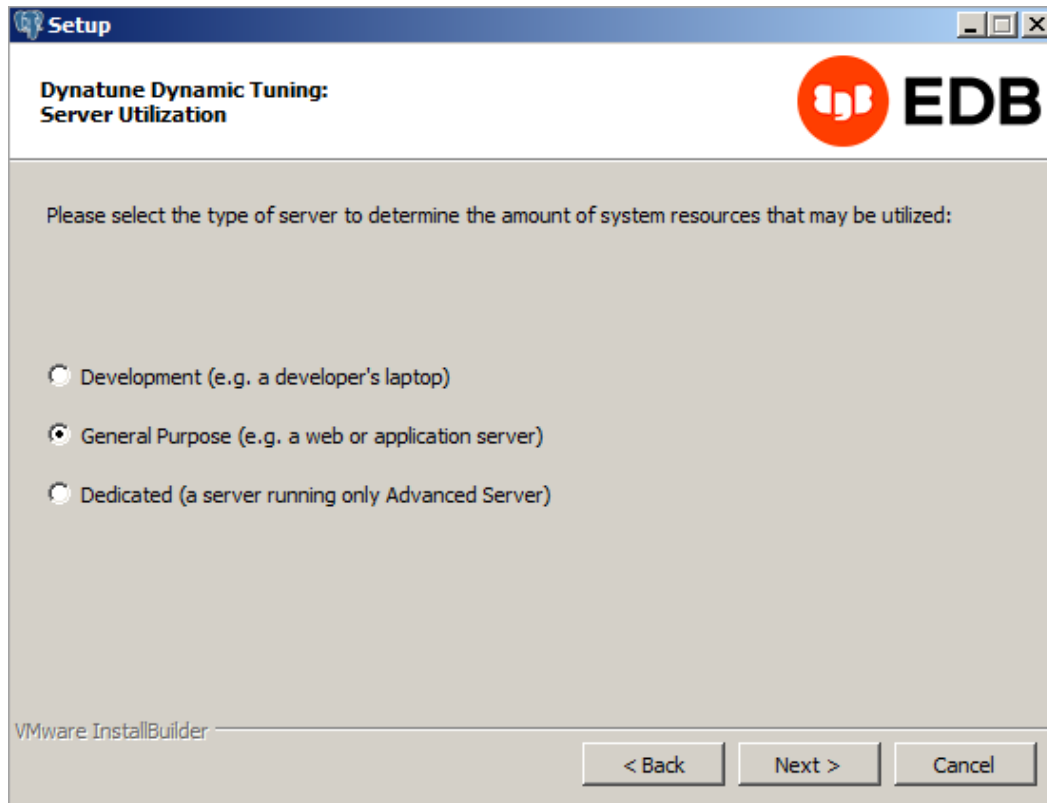


図9 DynatuneDynamicTuning:ServerUtilization ウィンドウ

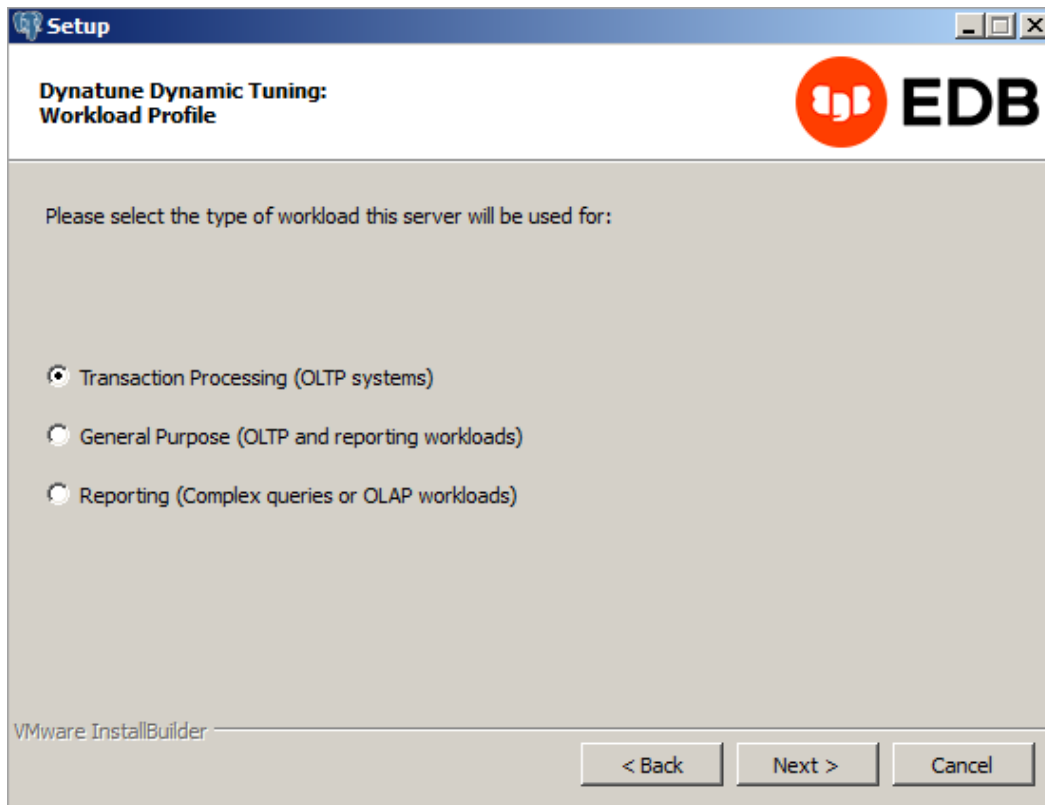
Server Utilization ウィンドウのラジオボタンを使用して、`edb_dynatune` 構成パラメータの初期値を設定します。

- Development を選択して、`edb_dynatune` の値を 33 に設定します。値が小さいと、ホストマシンのリソースの最小量がデータベースサーバーに割り当てられます。これは、開発マシンに適しています。
- General Purpose を選択して、`edb_dynatune` の値を 66 に設定します。ミッドレンジの値は、適度な量のシステムリソースをデータベースサーバー専用にします。これは、AdvancedServer と同じホスト上で実行されるアプリケーションの数が決まっているアプリケーションサーバーに適した設定です。
- Dedicated を選択して、`edb_dynatune` の値を 100 に設定します。高い値は、ほとんどのシステムリソースをデータベースサーバー専用にします。これは、専用サーバーホストに適しています。

インストールが完了したら、AdvancedServer インストールの `data` ディレクトリにある `postgresql.conf` ファイルを編集して、`edb_dynatune` の値を調整できます。`postgresql.conf` ファイルを編集した後、変更を有効にするにはサーバーを再起動する必要があります。

システムに適切な設定を選択し、Next をクリックして Dynatune Dynamic Tuning:Workload Profile ウィンドウに進みます。

Workload Profile ウィンドウのラジオボタンを使用して、`edb_dynatune_profile` 構成パラメータの初期値を指定します。`edb_dynatune_profile` パラメータは、サーバーが実行する作業のタイプに基づいてパ

図 10 *DynatuneDynamicTuning:WorkloadProfile* ウィンドウ

パフォーマンス調整の側面を制御します。

- Transaction Processing (OLTP systems) を選択して、`oltp` の `edb_dynatune_profile` 値を指定します。AdvancedServer が重いオンライントランザクション処理をサポートしている場合に推奨されます。
- General Purpose (OLTP and reporting workloads) を選択して、`mixed` の `edb_dynatune_profile` 値を指定します。トランザクション処理とデータレポートの両方を提供するサーバーに推奨されます。
- Reporting (Complex queries or OLAP workloads) を選択して、`reporting` の `edb_dynatune_profile` 値を指定します。大量のデータのレポートに使用されるデータベースサーバーに推奨されます。

インストールが完了したら、AdvancedServer インストールの `data` ディレクトリにある `postgresql.conf` ファイルを編集して、`edb_dynatune_profile` の値を調整できます。`postgresql.conf` ファイルを編集した後、変更を有効にするにはサーバーを再起動する必要があります。

`edb_dynatune` およびその他のパフォーマンス関連のトピックの詳細については、EDBWeb サイトから入手できる*EDBPostgresAdvancedServerGuide* を参照してください。

<https://www.enterprisedb.com/edb-docs>

Next をクリックして続行します。

デフォルトでは、AdvancedServer はシステムの起動時にサービスを開始するように構成されています。Pre Installation Summary が開きます。

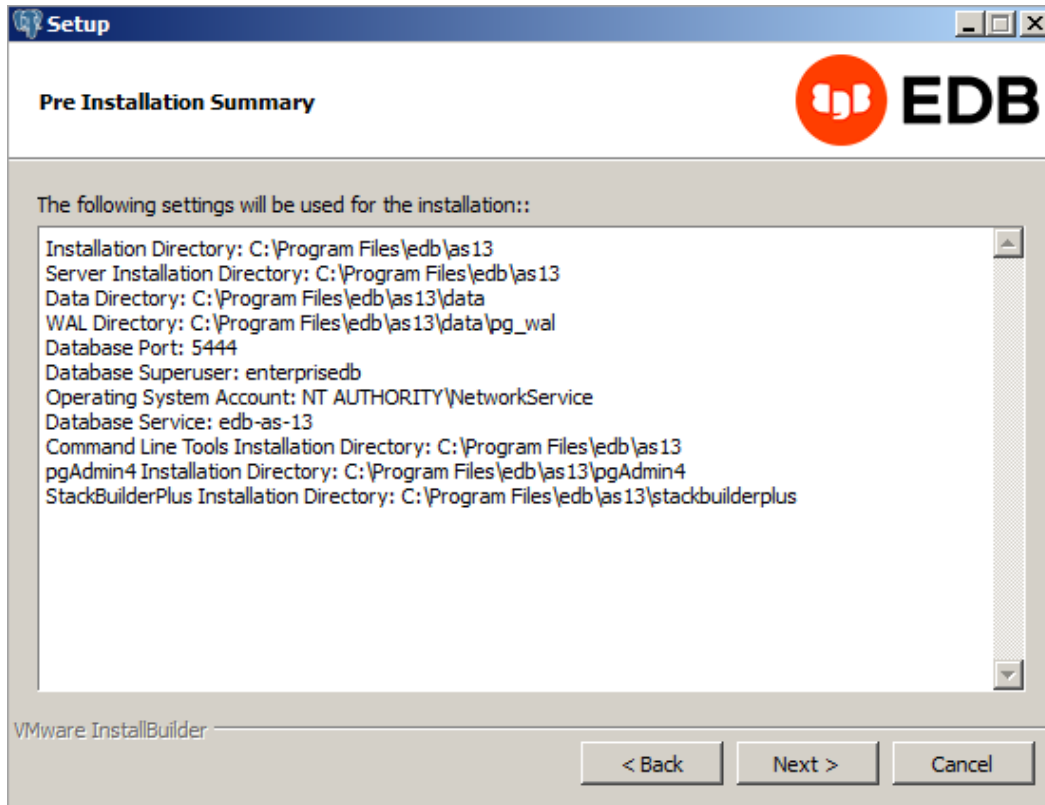


図 11 インストール前の概要

Pre Installation Summary は、Setup プロセス中に指定されたオプションの概要を提供します。Next をクリックする前にオプションを確認してください。Back をクリックしてダイアログに戻り、オプションを更新します。

Ready to Install ウィンドウは、インストーラーが AdvancedServer をインストールするための設定に関する必要な情報を持っていることを確認します。Next をクリックして続行します。

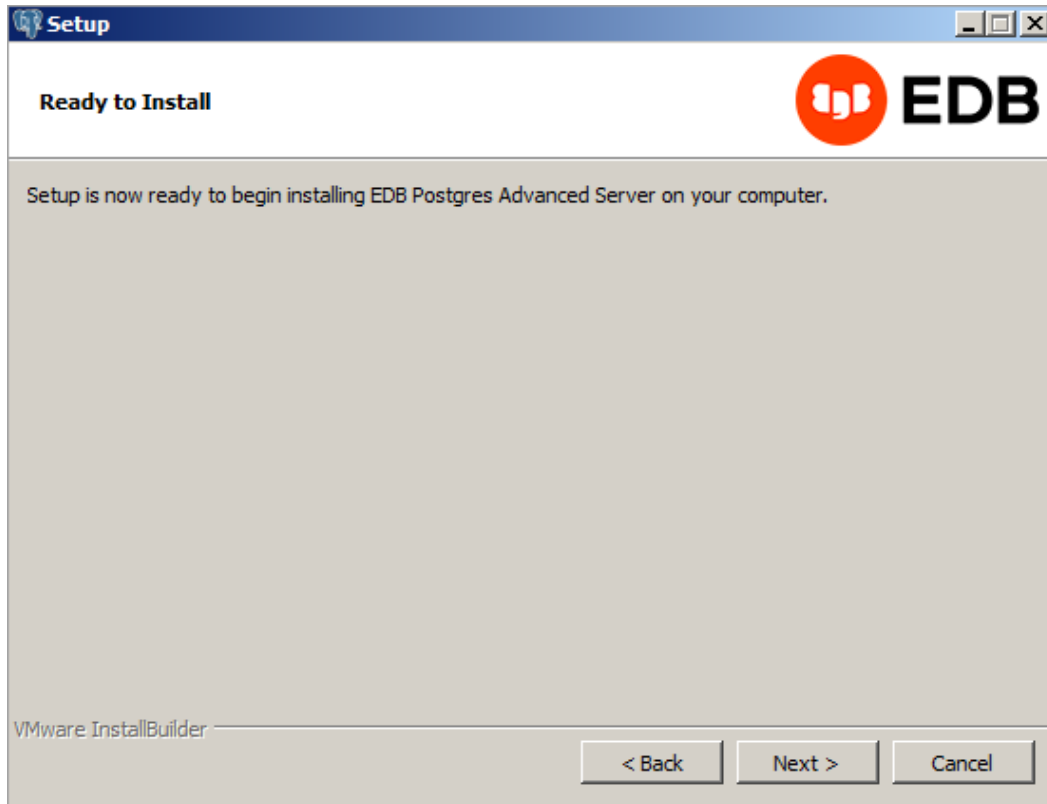


図 12 インストールの準備完了ウィンドウ

各サポートモジュールが開梱されてインストールされると、モジュールのインストールが進行状況バーで確認されます。

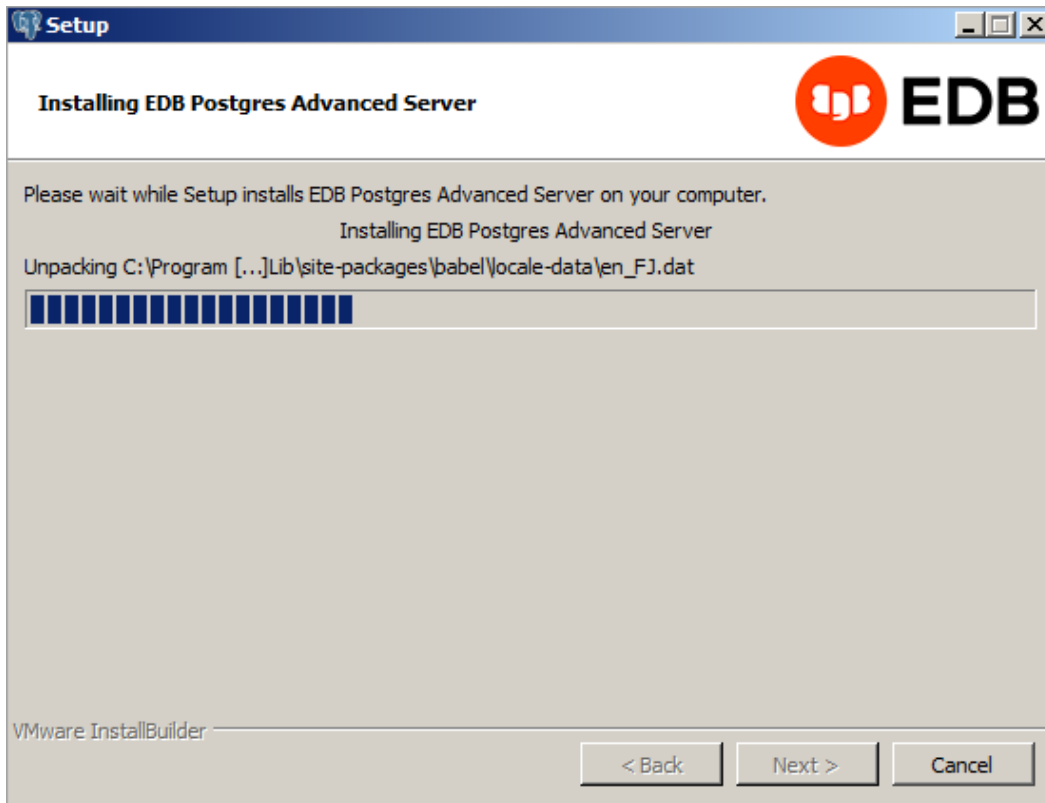


図 13 AdvancedServer のインストール

Setup ウィザードが AdvancedServer のインストールを完了する前に、Launch StackBuilder Plus at exit?

StackBuilder Plus チェックボックスをオフにして Finish をクリックして AdvancedServer のインストールを完了するか、デフォルトを受け入れて StackBuilderPlus に進むことができます。

EDBPostgresStackBuilderPlus は、AdvancedServer とそのコアサポートコンポーネントのインストールに含まれています。StackBuilderPlus は、AdvancedServer のセットアップとインストールが完了した後、インストールされた製品を更新したり、サポートモジュール（および結果の依存関係）をダウンロードして追加したりできるグラフィカルツールです。StackBuilderPlus の詳細については、[StackBuilderPlus の使用](#) を参照してください。

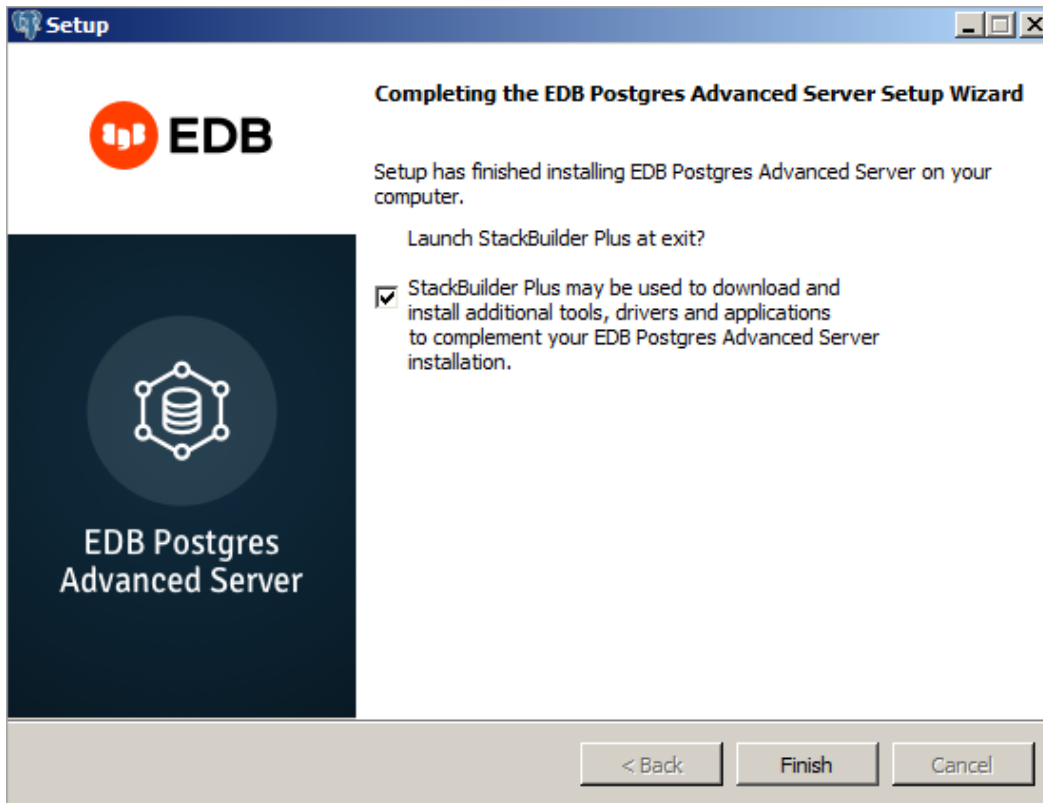


図 14 セットアップウィザードでは、終了時に *StackBuilderPlus* を起動できます

3.2 Invoking the Graphical Installer from the Command Line

AdvancedServer インストーラーのコマンドラインオプションは、リソースまたは特権が制限されているためにグラフィカルインストールが機能しない状況にある Windows システムに機能を提供します。次のことができます。

- インストーラーを呼び出してユーザー入力なしでインストールを実行する場合は、`--mode unattended` オプションを含めます。
- 完全なインストールを実行するために必要な権限を持っていない場合は、`--extract-only` オプションを使用してインストーラーを起動し、最小限のインストールを実行します。

すべてのコマンドラインオプションがすべての状況に適しているわけではありません。コマンドラインオプションの完全なリファレンスガイドについては、[リファレンス-コマンドラインオプション](#) を参照してください。

注釈: コマンドラインからインストーラーを呼び出してシステムのアップグレードを実行する場合、インストーラーはコマンドラインオプションを無視し、以前のインストールの構成を保持します。

3.2.1 Performing an Unattended Installation

ユーザーの操作なしでインストーラーを実行するように指定するには、`--mode unattended` コマンドラインオプションを含めます。無人モードでは、インストーラーは構成パラメーターに次のソースのいずれかを使用します。

- コマンドラインオプション（インストーラーの起動時に指定）
- オプションファイルで指定されたパラメーター
- AdvancedServer のインストールのデフォルト

非対話型の AdvancedServer インストーラーを別のアプリケーションインストーラーに埋め込むことができます。インストールプロセス中、進行状況バーを使用して、インストールの進行状況を表示できます。

`--mode unattended` オプションを使用して AdvancedServer をインストールするには、管理者権限が必要です。`--mode unattended` オプションを使用して AdvancedServer をクライアントと一緒にインストールする場合は、呼び出し側クライアントをスーパーユーザーまたは管理者権限で呼び出す必要があります。

無人モードでインストーラーを起動するには、実行可能ファイルを含むディレクトリに移動して、次のように入力します。

```
edb-as13-server-13.x.x-x-windows-x64.exe --mode unattended --superpassword  
database_superuser_password --servicepassword system_password
```

インストーラーを起動するときに、`--servicepassword` オプションを含めて、AdvancedServer をインストールするユーザーのオペレーティングシステムパスワードを指定します。

`--superpassword` オプションを使用して、ホストで定義されたパスワードセキュリティポリシーに適合するパスワードを指定します。システムで施行されているパスワードポリシーは、デフォルトのパスワード (enterprisedb) を受け入れない場合があります。

3.2.2 Performing an Installation with Limited Privileges

管理者権限にアクセスせずに AdvancedServer の短縮インストールを実行するには、コマンドラインからインストーラーを起動し、`--extract-only` オプションを含めます。`--extract-only` オプションはバイナリファイルを変更されていない形式で抽出するため、AdvancedServer の最小限のインストールを試すことができます。

`--extract-only` オプションを指定してインストーラーを起動する場合、クラスターを手動で作成してサービスを開始するか、インストールスクリプトを実行できます。クラスターを手動で作成するには、以下を行う必要があります。

- `initdb` を使用してクラスターを初期化します
- クラスターを構成する
- `pg_ctl` を使用してサービスを開始します

`initdb` および `pg_ctl` コマンドの詳細については、次の PostgreSQL コアドキュメントを参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/current/static/app-initdb.html>

<https://www.postgresql.org/docs/current/static/app-pg-ctl.html>

`--extract-only` オプションを含めると、インストーラーは Setup ウィザードの短縮形を実行します。簡単なインストールプロセス中に、インストーラーはインストールスクリプトを生成します。このスクリプトは、後で使用して、より完全なインストールを完了することができます。インストールスクリプトを呼び出すには、管理者権限が必要です。

インストールスクリプト:

- クラスターが空の場合、データベースクラスターを初期化します。
- 起動時に起動するようにサーバーを構成します。
- Dynatune（動的チューニング）変数の初期値を確立します。

スクリプトによる AdvancedServer のインストールでは、メニューショートカットは作成されず、EDBPostgresStackBuilderPlus へのアクセスも提供されず、レジストリファイルは変更されません。

制限付きインストールを実行し、インストールスクリプトを生成するには、AdvancedServer インストーラーをダウンロードして解凍します。インストーラーが含まれるディレクトリに移動し、次のコマンドでインストーラーを起動します。

```
edb-as13-server-13.x.x-x-windows.exe --extract-only yes
```

ダイアログが開き、インストール言語の選択を求められます。ドロップダウンリストボックスからインストールの言語を選択し、OK をクリックして続行します。Setup Wizard が開きます。

Next をクリックして続行します。

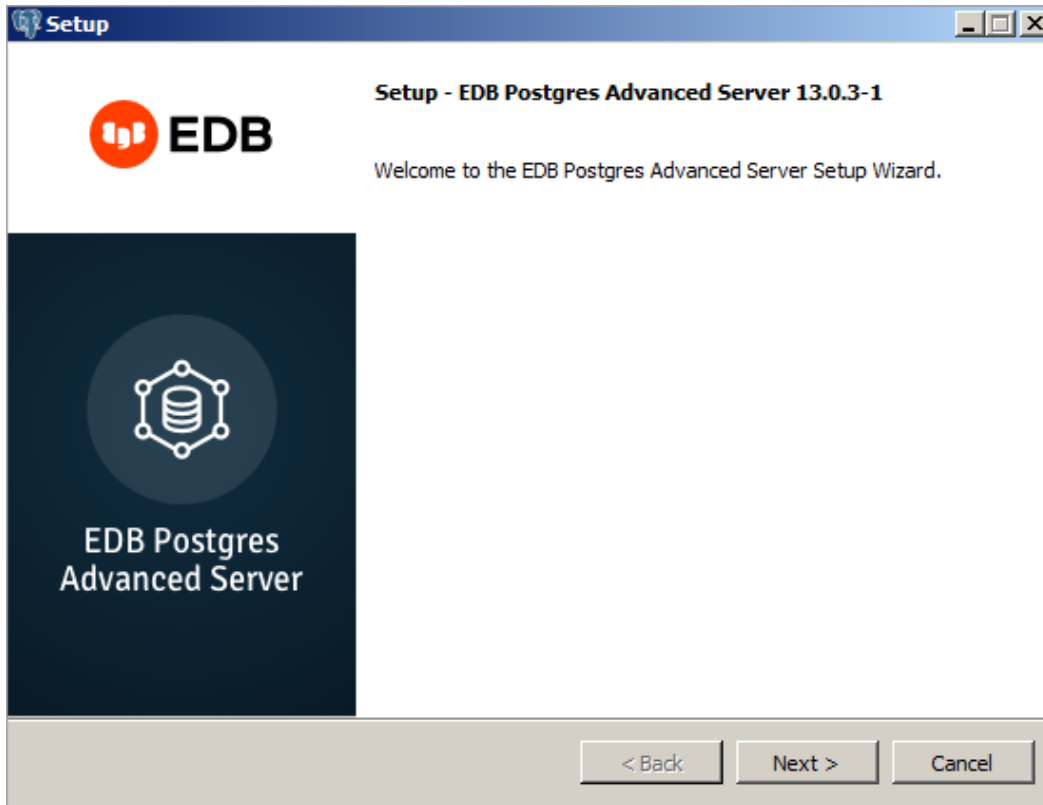


図 15 ようこそウィンドウ

Windows では、デフォルトの AdvancedServer インストールディレクトリは次のとおりです。

```
C:\Program Files\edb\as13
```

デフォルトのインストール場所を受け入れて Next をクリックして Ready to Install ウィンドウに進むか、オプションで File Browser アイコンをクリックして別のインストールディレクトリを選択できます。

AdvancedServer のインストールを続行するには、Next をクリックします。インストール中、進行状況バーとポップアップがインストールの進行状況を示します。インストールが完了すると、インストーラーから通知されます。

最小インストールが完了したら、スクリプトを実行してクラスターを初期化し、サービスを開始できます。スクリプトは（デフォルトで）次の場所にあります。

```
C:\Program Files\edb
```

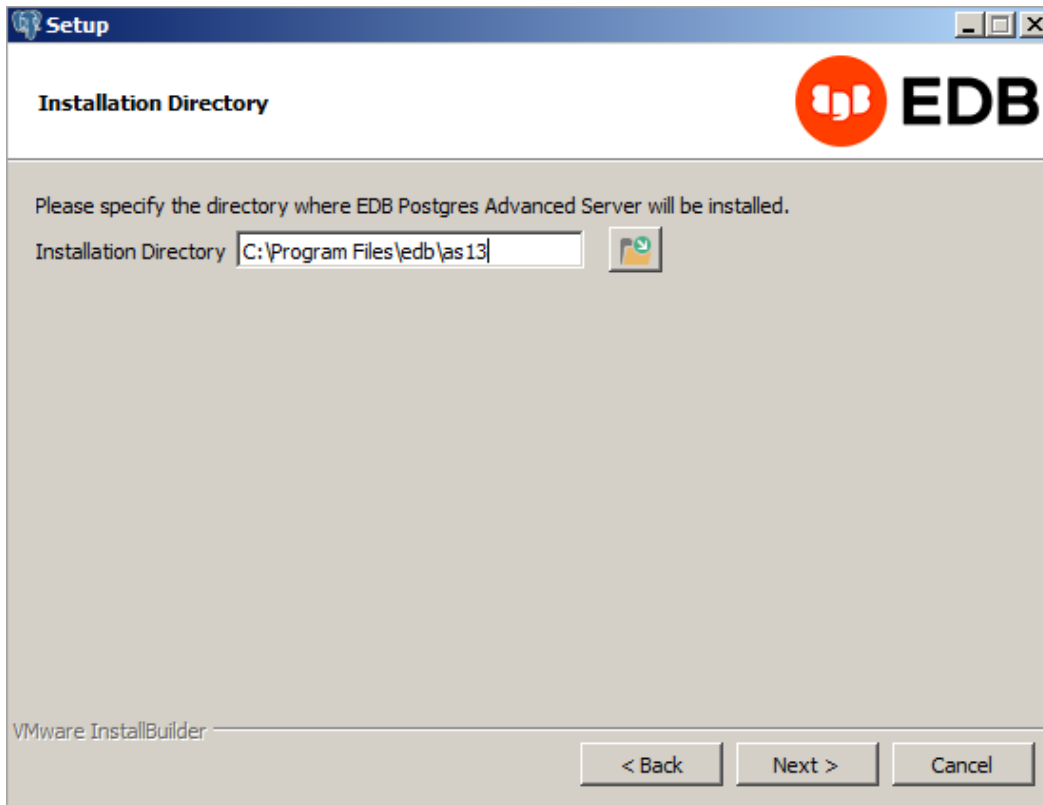


図 16 インストールディレクトリを指定

3.2.3 Reference - Command Line Options

オプションで、AdvancedServer インストーラーを起動するときに、コマンドラインまたは構成ファイルに AdvancedServer インストールの次のパラメーターを含めることができます。

```
--create_samples { yes | no }
```

--create_samples オプションを使用して、インストーラーが --databasemode パラメーターで指定されたデータベース方言のサンプルテーブルとプロシージャを作成するかどうかを指定します。デフォルトは yes です。

```
--databasemode { oracle | postgresql }
```

--databasemode パラメーターを使用して、データベースの方言を指定します。デフォルトは oracle です。

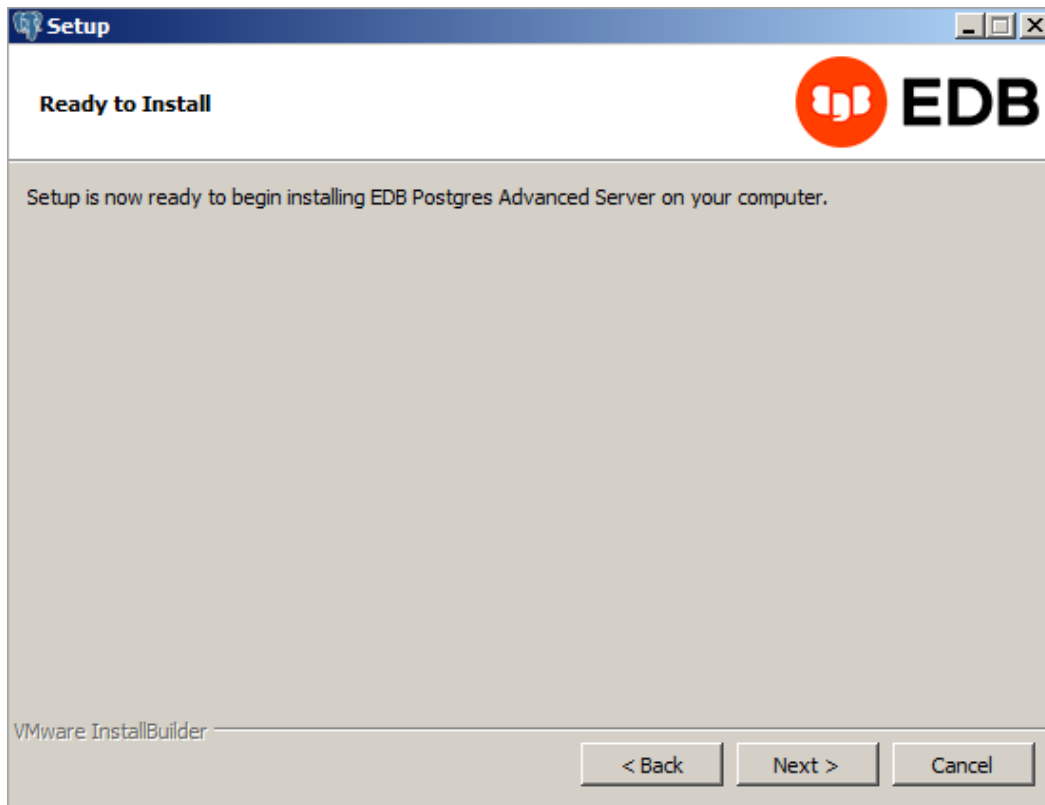


図 17 セットアップウィザードで *AdvancedServer* をインストールする準備ができました

```
--datadir data_directory
```

--datadir パラメーターを使用して、クラスターのデータディレクトリの場所を指定します。
data_directory はディレクトリの名前です。目的のディレクトリへの完全なパスを含めます。

```
--debuglevel { 0 | 1 | 2 | 3 | 4 }
```

--debuglevel パラメーターを使用して、 debug_log ファイルに書き込まれる詳細レベルを設定します（--debugtrace を参照）。値を大きくすると、長いトレースファイルで詳細が生成されます。デフォルトは 2 です。

```
--debugtrace debug_log
```

--debugtrace パラメーターを使用して、インストールの問題をトラブルシューティングします。
debug_log は、トラブルシューティングの詳細を含むファイルの名前です。

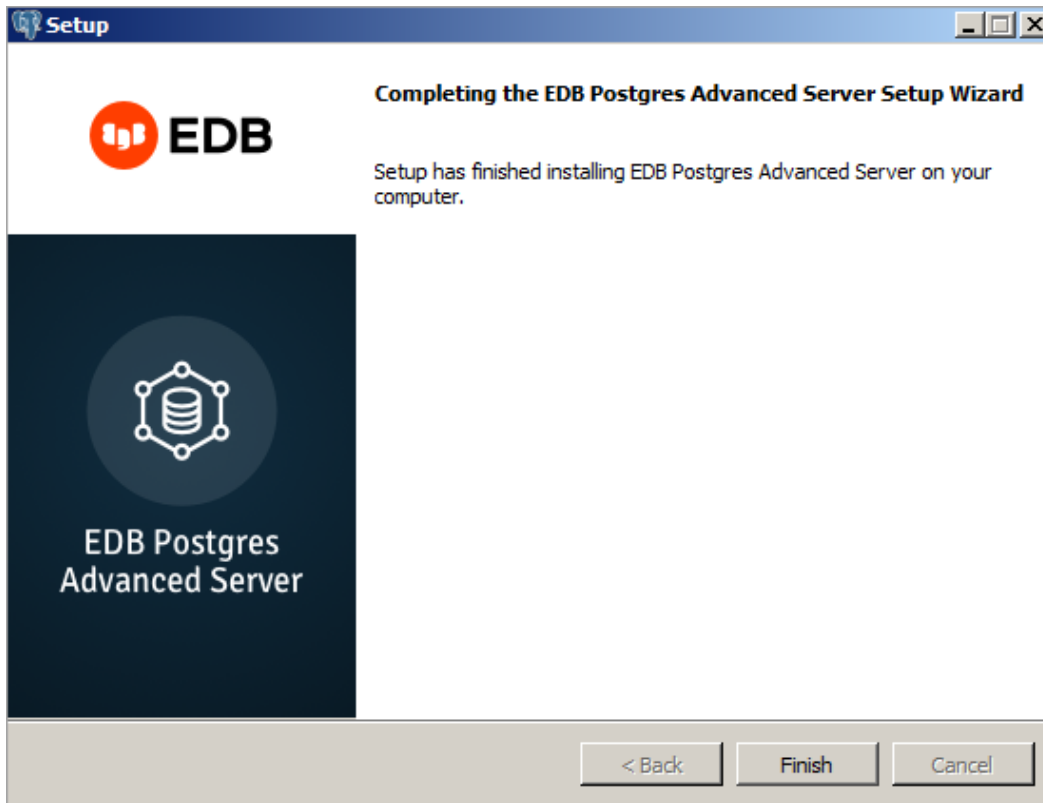


図 18 AdvancedServer のインストールが完了しました

```
--disable-components component_list
```

--disable-components パラメーターを使用して、インストールから除外する AdvancedServer コンポーネントのリストを指定します。デフォルトでは、component_list には”（空の文字列）が含まれています。component_list は、次のコンポーネントを 1 つ以上含むコンマ区切りリストです。

dbserver

EDBPostgresAdvancedServer13。

pgadmin4

EDBPostgrespgAdmin4 は、データベースの管理と監視のための強力なグラフィカルインターフェイスを提供します。

```
--enable_acledit { 1 | 0 }
```

--enable_acledit 1 オプションは、--serviceaccount オプションで指定されたユーザーに AdvancedServer バイナリと data ディレクトリにアクセスする許可を与えるようインストーラーに指示し

ます。デフォルトでは、`--enable_acledit 0` が指定されている場合、または `--enable_acledit` オプションが完全に省略されている場合、このオプションは無効になります。

注釈: このオプションの指定は、Windows にインストールする場合にのみ有効です。AdvancedServer をインストールするオブジェクトへのアクセスを許可するために discretionary access control list (DACL) を設定する必要がある場合は、`--enable_acledit 1` オプションを指定する必要があります。DACL の詳細については、次を参照してください:[https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa446597\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa446597(v=vs.85).aspx)

AdvancedServer のアップグレードなどの将来の操作を実行するには、`--serviceaccount` オプションで指定されたサービスアカウントユーザーの data ディレクトリへのアクセスが存在する必要があります。`--enable_acledit 1` オプションを指定すると、サービスアカウントユーザーによる data ディレクトリへのアクセスが提供されます。

`--enable-components component_list`

`--help` オプションを指定してインストーラーを実行すると、このオプションがリストされますが、`--enable-components` パラメーターはインストールされるコンポーネントにはまったく影響しません。`component_list` での指定に関係なく、すべてのコンポーネントがインストールされます。選択した特定のコンポーネントのみをインストールするには、このセクションで前述した `--disable-components` パラメーターを使用して、インストールしないコンポーネントをリストする必要があります。

`--extract-only { yes | no }`

`--extract-only` パラメーターを含めて、インストーラーが完全なインストールを実行せずに AdvancedServer バイナリーを抽出する必要があることを示します。`--extract-only` オプションにはスーパーユーザー権限は必要ありません。デフォルト値は `no` です。

`--help`

`--help` パラメーターを含めて、オプションのパラメーターのリストを表示します。

`--installer-language { en | ja | zh_CN | zh_TW | ko }`

`--installer-language` パラメーターを使用して、AdvancedServer のインストール言語を指定します。デフォルトは `en` です。

`en` は英語を指定します。

`ja` は日本語を指定します

`zh_CN` は簡体字中国語を指定します。

`zh_TW` は繁体字中国語を指定します。

`ko` は韓国語を指定します。

`--install_runtimes { yes | no }`

`--install_runtimes` を含めて、インストーラーが **Microsoft VisualC++** ランタイムライブラリをインストールするかどうかを指定します。デフォルトは `yes` です。

`--locale locale`

AdvancedServer クラスターのロケールを指定します。デフォルトでは、インストーラーは `initdb` で検出されたロケールを使用します。

`--mode { unattended }`

`--mode unattended` パラメーターを使用して、インストールプロセス中にユーザー入力を必要としないインストールをインストーラーが実行するように指定します。

`--optionfile config_file`

`--optionfile` パラメーターを使用して、インストール構成パラメーターを含むファイルの名前を指定します。`config_file` は、構成パラメータファイルへの完全なパスを指定する必要があります。

`--prefix installation_dir/as13`

--prefix パラメーターを使用して、AdvancedServer のインストールディレクトリを指定します。インストーラーは、指定されたディレクトリにバージョン固有のサブディレクトリ（つまり、as13）を追加します。デフォルトのインストールディレクトリは次のとおりです。

```
C:\Program Files\edb\as13
```

```
--serverport port_number
```

AdvancedServer のリスナーポート番号を指定するには、--serverport パラメーターを使用します。

AdvancedServer を無人モードでインストールし、--serverport パラメーターを使用して値を指定しない場合、インストーラーはデフォルトのリスナーポートとしてポート 5444、またはポート 5444 の後の最初の使用可能なポートを使用します。

```
--server_utilization {33 | 66 | 100}
```

--server_utilization パラメーターを使用して、edb_dynatune 構成パラメーターの値を指定します。edb_dynatune 構成パラメータは、AdvancedServer がシステムリソースを割り当てる方法を決定します。

- 33 の値は、開発に使用されるシステムに適しています。値が小さいと、ホストマシンのリソースの最小量がデータベースサーバーに割り当てられます。
- 66 の値は、アプリケーションの数が固定されているアプリケーションサーバーに適しています。ミッドレンジの値は、適度な量のシステムリソースをデータベースサーバー専用にします。デフォルト値は 66 です。
- 100 の値は、AdvancedServer の実行専用のホストマシンに適しています。高い値は、ほとんどのシステムリソースをデータベースサーバー専用にします。

インストールが完了したら、AdvancedServer インストールの data ディレクトリにある postgresql.conf ファイルを編集して、edb_dynatune の値を調整できます。postgresql.conf ファイルを編集した後、変更を有効にするにはサーバーを再起動する必要があります。

```
--serviceaccount user_account_name
```

--serviceaccount パラメーターを使用して、サーバープロセスを所有するユーザーアカウントの名前を指定します。

- `--databasemode` が `oracle` (デフォルト) に設定されている場合、`--serviceaccount` のデフォルト値は `enterprisedb` です。
- `--databasemode` が `postgresql` の場合、`--serviceaccount` のデフォルト値は `postgres` に設定されます。

セキュリティ上の理由から、`--serviceaccount` パラメーターは管理者権限を持たないアカウントの名前を指定する必要があることに注意してください。

インストーラーを呼び出すときに `--serviceaccount` オプションと `--enable_acledit 1` オプションの両方を指定すると、データベースサービスと `pgAgent` は同じサービスアカウントを使用するため、`AdvancedServer` バイナリと `data` ディレクトリにアクセスするために必要な権限が与えられます。

注釈: インストーラーを呼び出すときに `--serviceaccount` オプションを含めない場合、`NetworkService` アカウントがデータベースサービスを所有し、`pgAgent` サービスは `enterprisedb` または `postgres` (インストールモードに応じて) によって所有されます。

`--servicename service_name`

`--servicename` パラメーターを使用して、`AdvancedServer` サービスの名前を指定します。デフォルトは `edb-as-13` です。

`--servicepassword user_password`

`--servicepassword` を使用して、OS システムのパスワードを指定します。指定しない場合、`--servicepassword` の値はデフォルトで `--superpassword` の値になります。

`--superaccount super_user_name`

`--superaccount` パラメーターを使用して、データベースのスーパーユーザーのユーザー名を指定します。

- `--databasemode` が `oracle` (デフォルト) に設定されている場合、`--superaccount` のデフォルト値は `enterprisedb` です。
- `--databasemode` が `postgresql` に設定されている場合、`--superaccount` のデフォルト値は `postgres` に設定されます。

```
--superpassword superuser_password
```

--superpassword を使用して、データベースのスーパーユーザーのパスワードを指定します。非対話モードでインストールしている場合、--superpassword はデフォルトで enterprisedb になります。

```
--unattendedmodeui { none | minimal | minimalWithDialogs }
```

--unattendedmodeui パラメーターを使用して、無人インストール中のインストーラーの動作を指定します。

AdvancedServer のインストール中にインストーラーが進行状況バーを表示しないように指定するには、--unattendedmodeui none を含めます。

--unattendedmodeui minimal を含めて、インストールプロセス中にインストーラーが進行状況バーを表示するように指定します。これがデフォルトの動作です。

--unattendedmodeui minimalWithDialogs を含めて、インストーラーが進行状況バーを表示し、インストールプロセス中に発生したエラーを報告するように指定します（追加のダイアログで）。

```
--version
```

--version パラメーターを含めて、インストーラーに関するバージョン情報を取得します。

```
EDB Postgres Advanced Server 13.0.3-1 --- Built on 2020-10-23 00:12:44
IB:20.6.0-202008110127
```

```
--workload_profile {oltp | mixed | reporting}
```

--workload_profile パラメーターを使用して、edb_dynatune_profile 構成パラメーターの初期値を指定します。edb_dynatune_profile は、サーバーが実行する作業のタイプに基づいて、パフォーマンス調整の側面を制御します。

- 高度なオンライントランザクション処理ワークロードをサポートするために AdvancedServer インストールが使用される場合は、oltp を指定します。
- デフォルト値は oltp です。
- AdvancedServer がトランザクション処理とデータレポートを組み合わせで提供する場合は、mixed を指定します。

- AdvancedServer が大量のデータレポートに使用される場合は、`reporting` を指定します。

インストールが完了したら、AdvancedServer インストールの `data` ディレクトリにある `postgresql.conf` ファイルを編集して、`edb_dynatune_profile` の値を調整できます。`postgresql.conf` ファイルを編集した後、変更を有効にするにはサーバーを再起動する必要があります。

`edb_dynatune` およびその他のパフォーマンス関連のトピックの詳細については、次から入手できる **EDBPostgresAdvancedServerGuide** を参照してください。

<https://www.enterprisedb.com/edb-docs>

3.3 Using StackBuilder Plus

StackBuilderPlus ユーティリティは、AdvancedServer インストールを補完するモジュールの更新、ダウンロード、インストールのプロセスを簡素化するグラフィカルインターフェイスを提供します。StackBuilderPlus でモジュールをインストールすると、StackBuilderPlus はソフトウェアの依存関係を自動的に解決します。

Apps メニューから StackBuilder Plus メニューオプションを選択することにより、インストール完了後いつでも StackBuilderPlus を起動できます。システムパスワードを入力し（プロンプトが表示された場合）、StackBuilderPlus のウェルカムウィンドウが開きます。

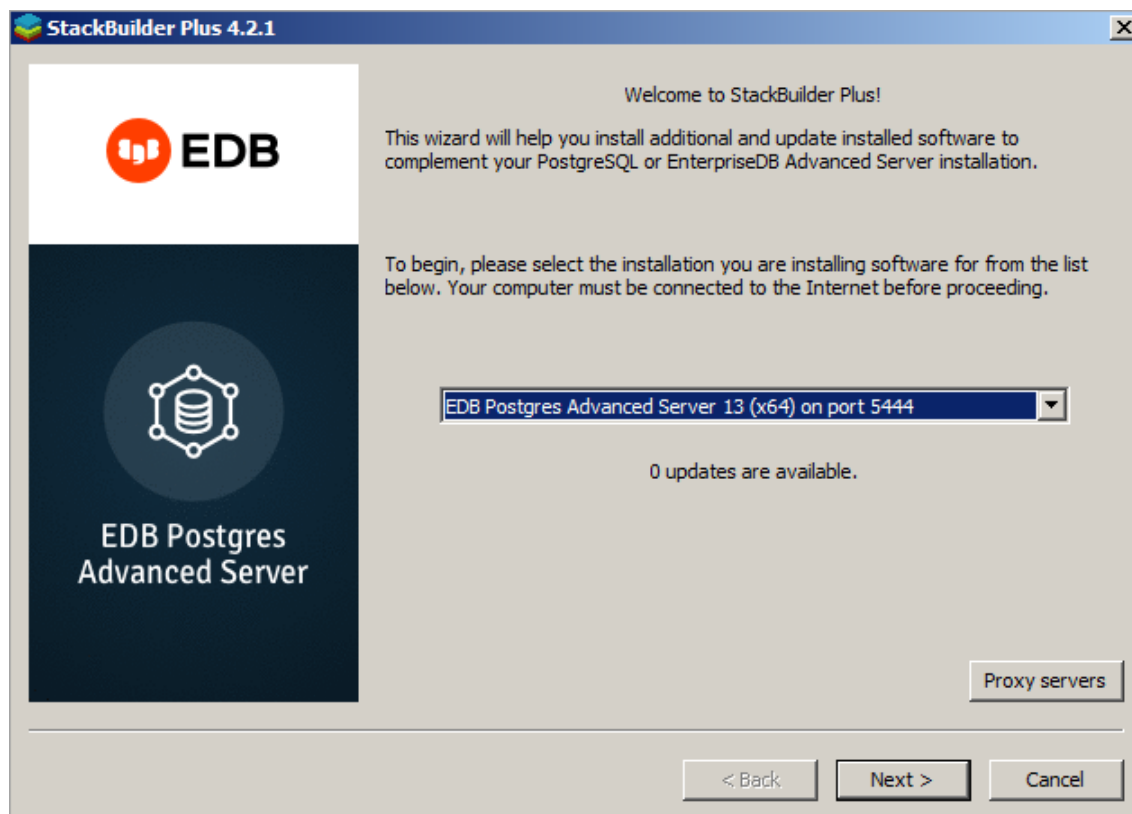


図 19 StackBuilderPlus ウェルカムウィンドウ

[ようこそ] ウィンドウのドロップダウンリストボックスを使用して、AdvancedServer インストールを選択します。

StackBuilderPlus にはインターネットアクセスが必要です。AdvancedServer のインストールがファイアウォールの背後にある場合（インターネットアクセスが制限されている場合）、StackBuilderPlus はプロキシサーバー経由でプログラムインストーラーをダウンロードできます。モジュールプロバイダーは、HTTP プロキシまたは FTP プロキシを介してモジュールにアクセスできるかどうかを判断します。現在、すべての更新は HTTP プロキシ経由で転送され、FTP プロキシ情報は使用されません。

選択した AdvancedServer インストールでインターネットアクセスが制限されている場合は、Welcome ウィンドウの Proxy Servers を使用して Proxy servers ダイアログを開きます。

Proxy Servers ダイアログの HTTP proxy にプロキシサーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。

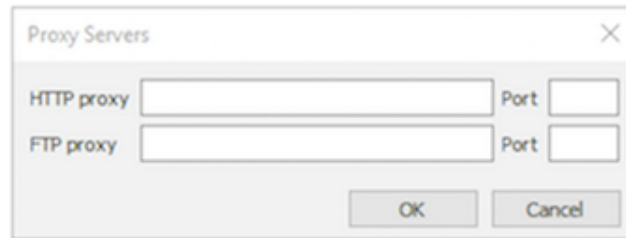


図 20 プロキシサーバーダイアログ

現在、すべての StackBuilderPlus モジュールは HTTP プロキシ経由で配布されています（FTP プロキシ情報は無視されます）。OK をクリックして続行します。

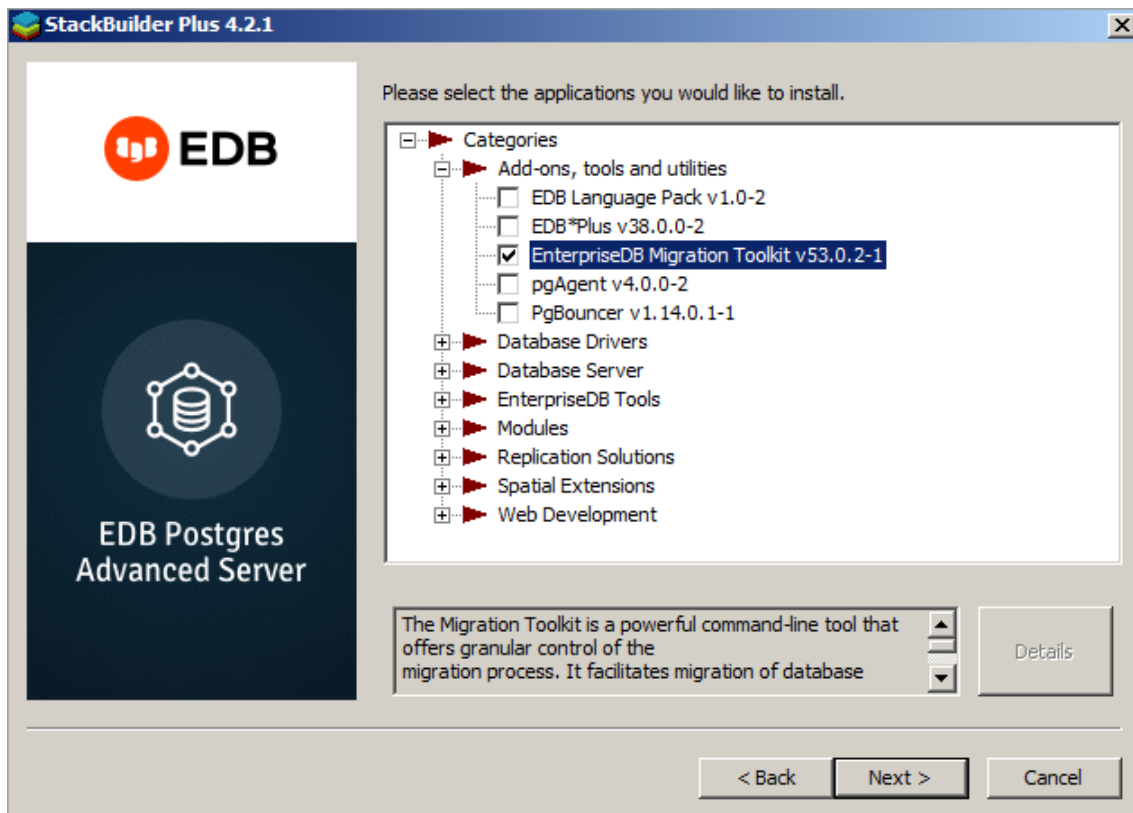


図 21 StackBuilderPlus モジュール選択ウィンドウ

StackBuilderPlus モジュール選択ウィンドウのツリーコントロールには、各モジュールカテゴリのノードが表示されます。

モジュールを展開し、ツリーコントロールでコンポーネント名を強調表示して、コンポーネントの詳細な説明を確認します。1 つ以上のコンポーネントをインストールに追加するか、コンポーネントをアップグレードするには、モジュール名の左側にあるチェックボックスをオンにして、Next をクリックします。

StackBuilderPlus は選択されたパッケージを確認します。

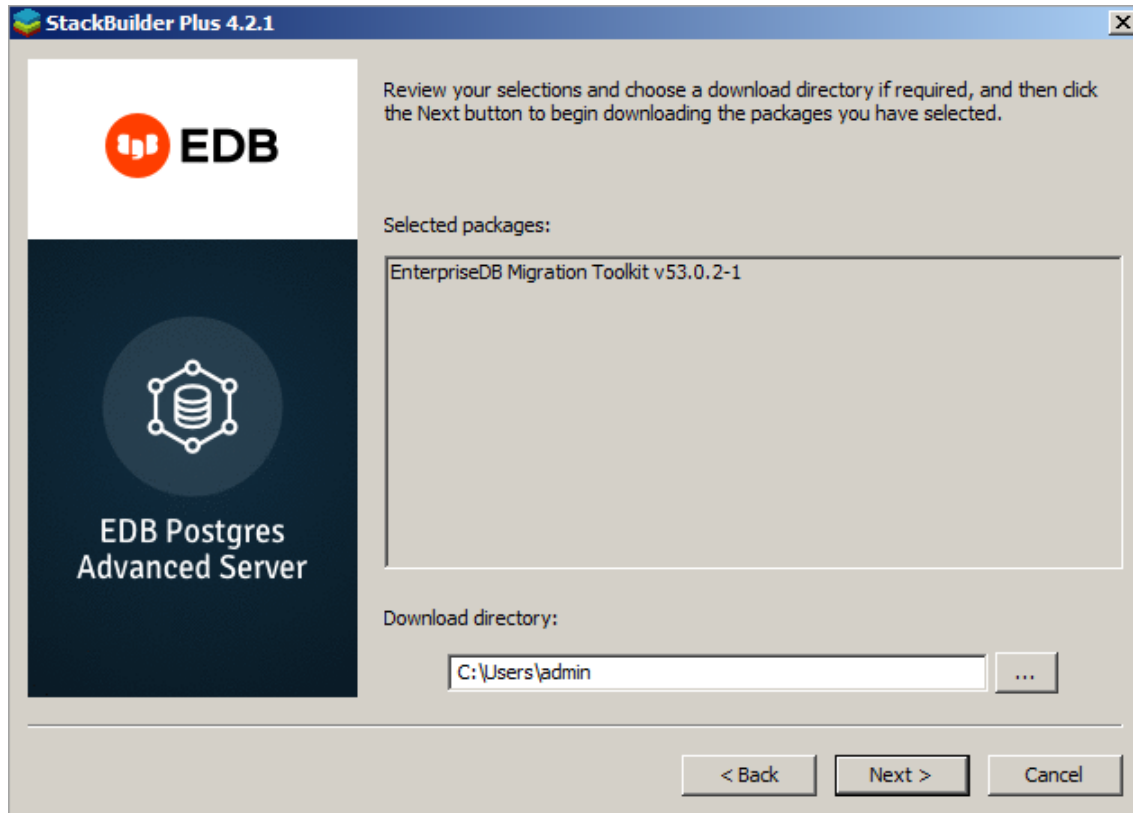


図 22 サマリウィンドウに選択したパッケージのリストが表示されます

Download directory フィールドの右側にある参照アイコン (...) を使用してファイルセクターを開き、ダウンロードしたインストーラーを保存する別の場所を選択します。Next をクリックしてサーバーに接続し、必要なインストールファイルをダウンロードします。

ダウンロードが完了すると、インストールファイルがダウンロードされ、インストールの準備ができていることを確認するウィンドウが開きます。

ダウンロードしたファイルをインストールせずに StackBuilderPlus を終了するには、Skip Installation の横のボックスをオンにして Next を選択するか、チェックを外して Next をクリックしてインストールプロセスを開始します。

ダウンロードしたインストーラーごとに異なる要件があります。インストーラーの実行時に、ライセンス契約への同意の確認、パスワードの入力、および構成情報の提供を求められる場合があります。

インストールプロセス中に、インストーラーの 1 つ（または複数）からシステムの再起動を求められる場合があります。すべてのインストールが完了するまで No または Restart Later を選択します。最後のインストールが

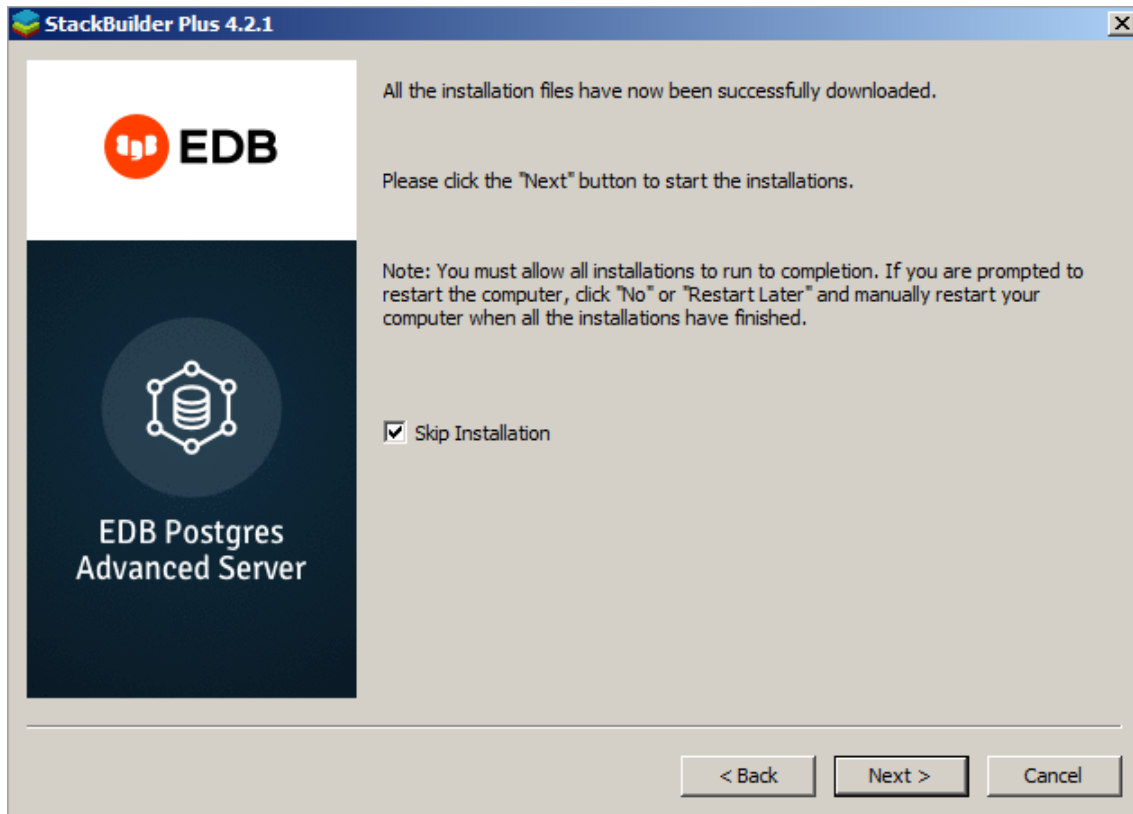


図 23 ダウンロードプロセスが完了したことの確認

完了したら、システムを再起動してすべての更新を適用します。

パッケージが正常にインストールされない場合があります。パッケージのインストールに失敗すると、StackBuilderPlus はポップアップダイアログでインストールエラーを警告し、%TEMP% のログファイルにメッセージを書き込みます。

インストールが完了すると、StackBuilderPlus は要求されたパッケージのインストールの成功または失敗を警告します。インストーラーによってコンピューターの再起動を求められた場合は、ここで再起動します。

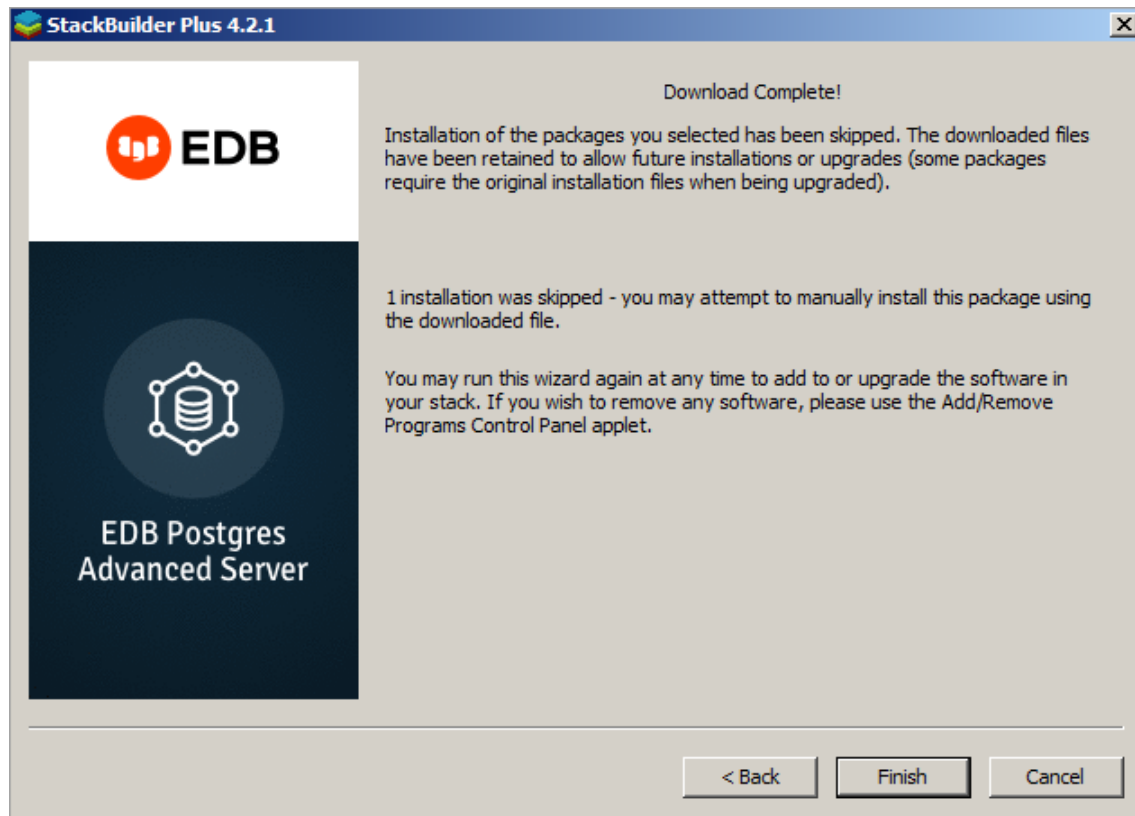


図 24 StackBuilderPlus は完了したインストールを確認します

3.4 Installation Troubleshooting

Difficulty Displaying Java-based Applications

Java ベースのサーバー機能（コントロールまたはテキストが正しく表示されない、または空白のウィンドウ）を表示するのが困難な場合、最新の libxcb-xlib ライブラリにアップグレードすると、ほとんどのディストリビューションで問題が修正されます。他の考えられる回避策については、次のリンクをご覧ください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6532373

-モード無人認証エラー

無人インストール中のコンポーネントモジュールからの認証エラーは、`--servicepassword` または `--superpassword` の指定値が正しくない可能性があることを示している場合があります。

Errors During an Advanced Server Installation

インストールプロセス中にエラーが発生した場合は、インストールを終了し、Windows のバージョンが最新であることを確認してください。未解決のオペレーティングシステムアップデートを適用した後、AdvancedServer インストーラーを再起動します。

The Installation Fails to Complete Due to Existing Data Directory Contents

データディレクトリ内の既存のコンテンツが原因でインストールが完了しない場合、サーバーはサーバーログにエラーメッセージを書き込みます。

```
A data directory is neither empty, or a recognisable data directory.
```

同様のメッセージが表示された場合は、データディレクトリが空であることを確認する必要があります。ファイル（システム生成の `lost+found` フォルダーを含む）が存在すると、インストールが完了しません。データディレクトリからファイルを削除するか、インストーラを再起動してインストールを完了する前に、データディレクトリに別の場所を指定します。

第 4 章

Connecting to Advanced Server with the pgAdmin 4 Client

pgAdmin4 は、データベースとデータベースオブジェクトの管理に使用できるインタラクティブなグラフィカルインターフェイスを提供します。使いやすいダイアログとオンラインヘルプにより、オブジェクトの作成、ロール管理、特権の付与または取り消しなどのタスクが簡素化されます。タブ付きブラウザパネルを使用すると、pgAdmin ツリーコントロールで現在選択されているオブジェクトに関する情報にすばやくアクセスできます。

クライアントは、グラフィカルインストーラーと共に配布されます。pgAdmin を開くには、EDB Postgres メニューから pgAdmin4 を選択します。クライアントがデフォルトのブラウザで開きます。

AdvancedServer データベースサーバーに接続するには、Browser ツリーコントロールの Servers ノードを展開し、EDB Postgres Advanced Server ノードを右クリックします。コンテキストメニューが開いたら、Connect Server を選択します。Connect to Server ダイアログが開きます。

Password フィールドにデータベースのスーパーユーザーに関連付けられたパスワードを入力し、OK をクリックして接続します。

クライアントが接続すると、Browser ツリーコントロールを使用して、既存のデータベースオブジェクトに関する情報を取得したり、新しいオブジェクトを作成したりできます。pgAdmin クライアントの使用に関する詳細については、Help ドロップダウンメニューを使用してオンラインヘルプファイルにアクセスしてください。

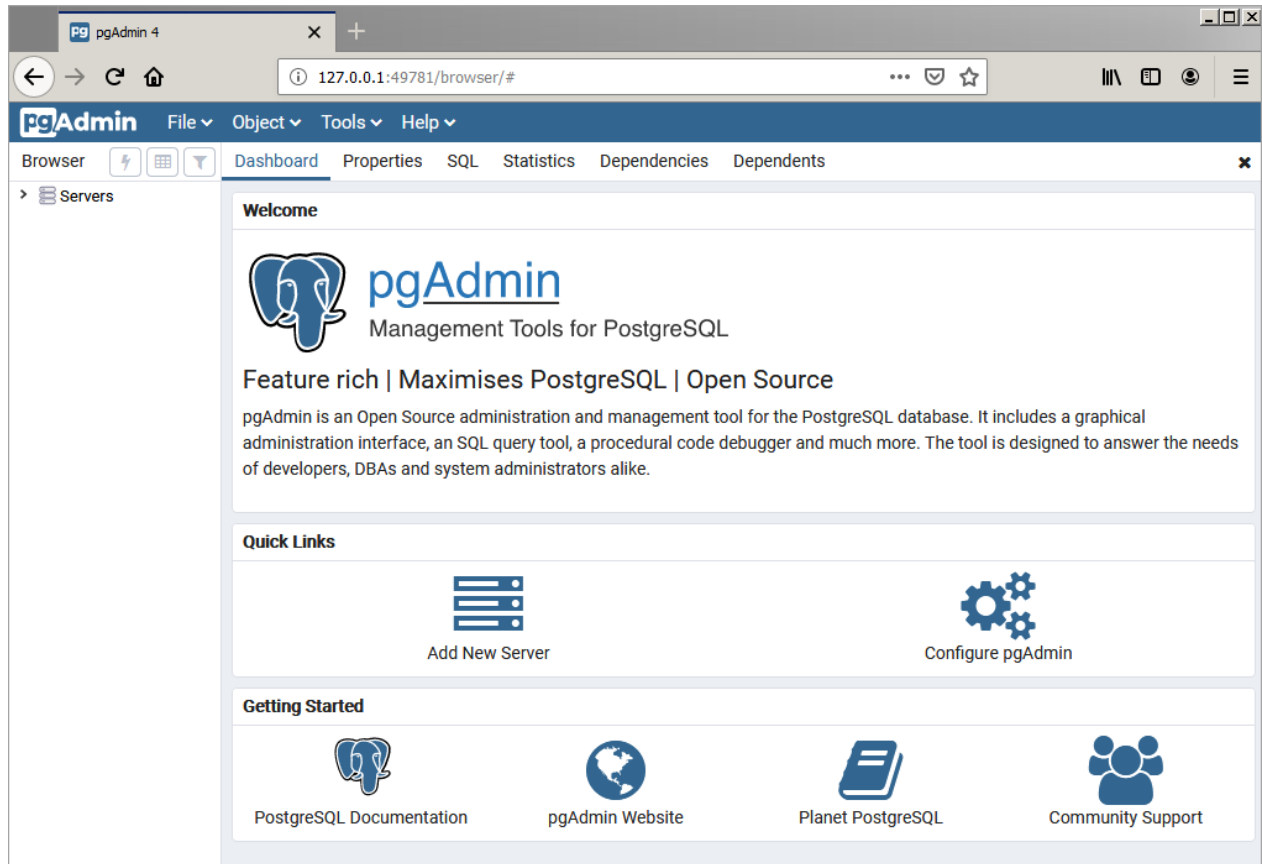


図 1 pgAdmin4 クライアントダッシュボード

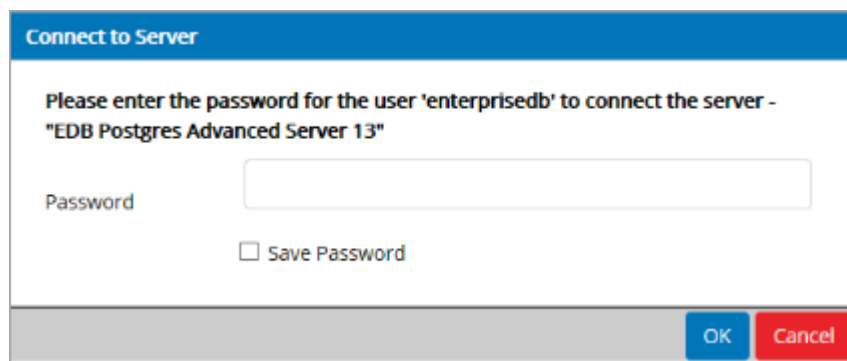


図 2 サーバーへの接続ダイアログ

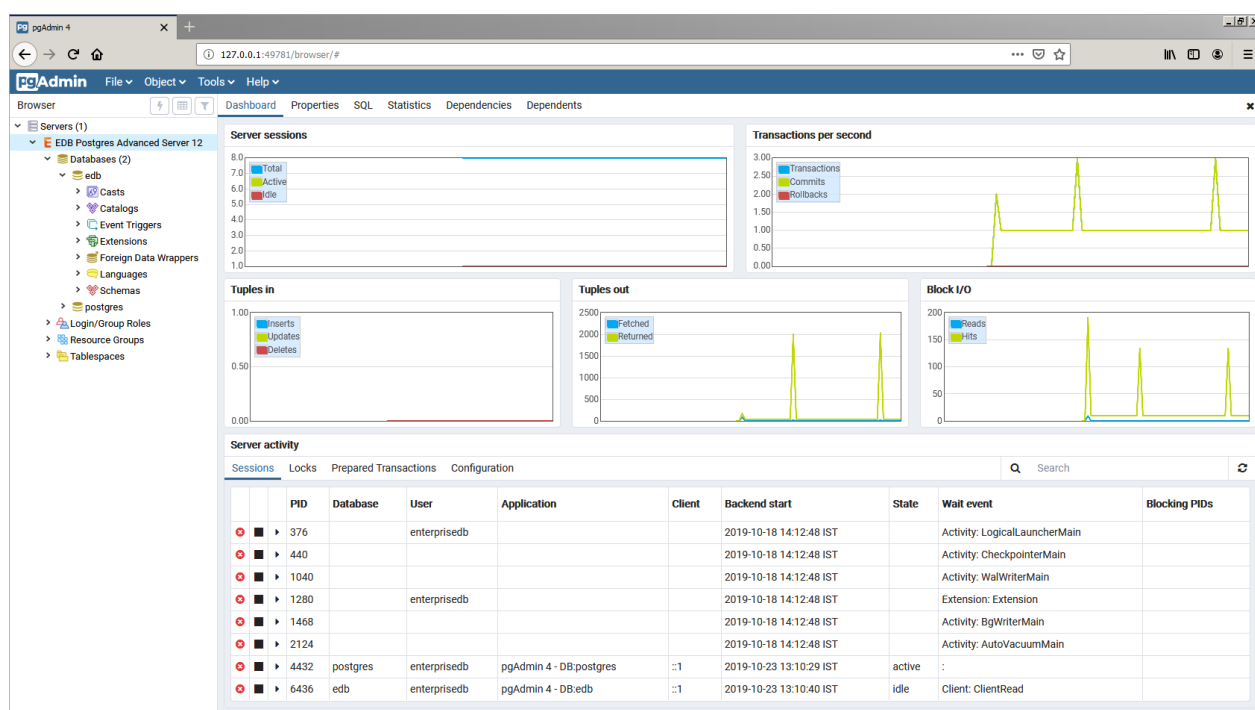


図 3 AdvancedServer データベースへの接続

第 5 章

Managing an Advanced Server Installation

特に記載がない限り、次のセクションで説明するコマンドとパスは、対話型インストーラーでインストールを実行したことを前提としています。

5.1 AdvancedServer とサポートコンポーネントの起動と停止

サービスは、バックグラウンドで実行されるプログラムであり、ユーザーの操作を必要としません（実際、サービスはユーザーインターフェイスを提供しません）。サービスは、起動時に開始するように、または手動でオンデマンドで開始するように構成できます。サービスは、プラットフォーム固有のオペレーティングシステムサービス制御ユーティリティを使用して最適に制御されます。AdvancedServer をサポートするコンポーネントの多くはサービスです。

次の表に、AdvancedServer を制御するサービスと AdvancedServer のサポートコンポーネントを制御するサービスの名前を示します。

高度なサーバーコンポーネント名	Windows サービス名
高度なサーバー	edb-as-13
pgAgent	EDBPostgresAdvancedServer13 スケジューリングエージェント
PgBouncer	edb-pgbouncer-1.14
スロニー	edb-slony-replication-13

コマンドラインまたは Windows サービスアプレットを使用して、AdvancedServer のデータベースサーバーと Windows ホスト上の AdvancedServer のサポートコンポーネントのサービスを制御できます。

5.1.1 Using the Windows Services Applet

Windows オペレーティングシステムには、AdvancedServer および AdvancedServer コンポーネントに関連付けられたサービスの制御を提供するグラフィカルサービスコントローラーが含まれています。Services ユーティリティには、Windows の Control Panel の Administrative Tools セクションからアクセスできます。

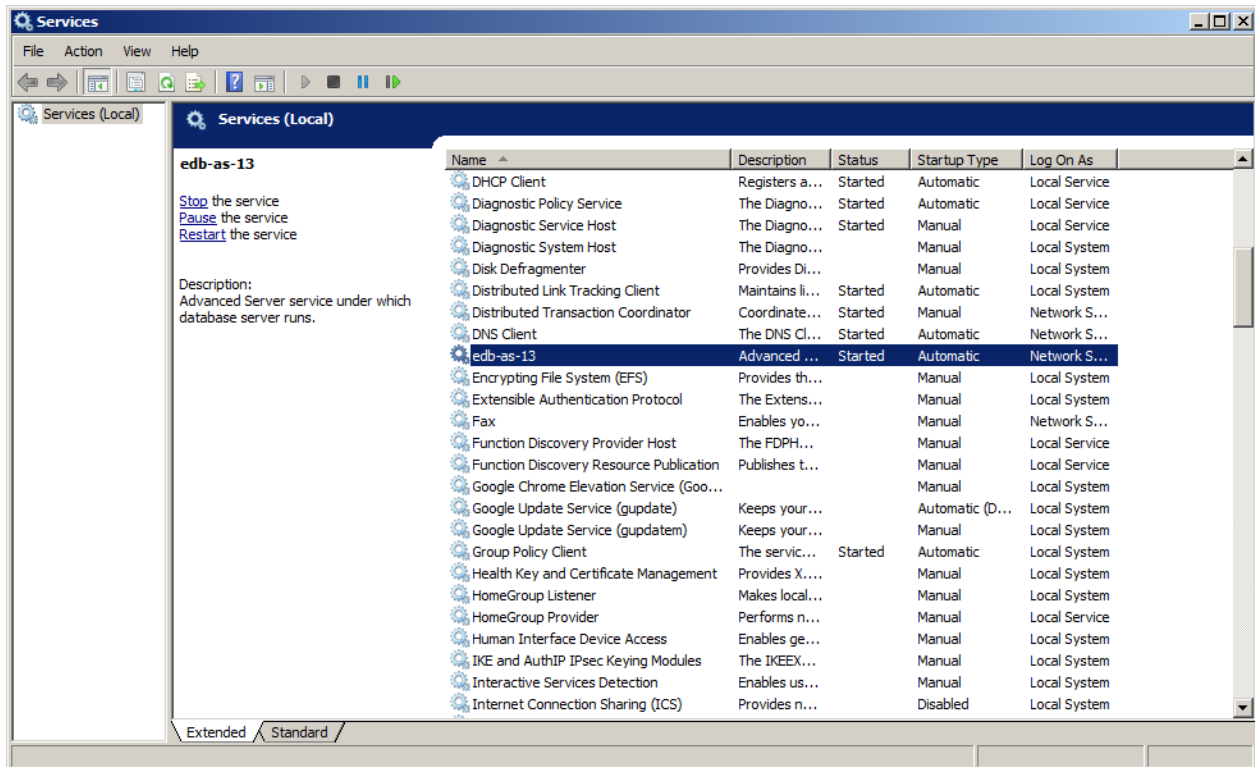


図 1 Windows サービスウィンドウの AdvancedServer サービス

Services ウィンドウには、アルファベット順のサービスのリストが表示されます。edb-as-13 サービスは AdvancedServer を制御します。

- AdvancedServer のインスタンスを停止するには、Stop the service オプションを使用します。サービスを停止すると、AdvancedServer インスタンスに接続しているユーザー（またはクライアントアプリケーション）は突然切断されることに注意してください。
- AdvancedServer サービスを開始するには、Start the service オプションを使用します。
- Pause the service オプションを使用して、多くの構成パラメーターのユーザーセッションを中断せずにサーバー構成パラメーターをリロードするように AdvancedServer に指示します。サーバーのリロードで更新できるパラメーターの詳細については、[ConfiguringAdvancedServer](#) を参照してください。
- AdvancedServer を停止してから起動するには、Restart the service オプションを使用します。サービスを停止すると、すべてのユーザーセッションが終了することに注意してください。このオプションは、サーバーの起動時にのみ有効になるサーバーパラメーターをリセットするのに役立ちます。

5.1.2 Using pg_ctl to Control Advanced Server

pg_ctl ユーティリティを使用して、任意のプラットフォームのコマンドラインから AdvancedServer サービスを制御できます。pg_ctl を使用すると、AdvancedServer データベースサーバーを起動、停止、または再起動したり、構成パラメーターを再読み込みしたり、実行中のサーバーのステータスを表示したりできます。ユーティリティを呼び出すには、クラスターの所有者の ID を想定し、AdvancedServer のホームディレクトリに移動して、コマンドを発行します。

```
./bin/pg_ctl -D data_directory action
```

data_directory

data_directory は、AdvancedServer クラスターによって制御されるデータの場所です。

action

action は、pg_ctl ユーティリティによって実行されるアクションを指定します。指定してください:

- start でサービスを開始します。
- stop はサービスを停止します。
- restart でサービスを停止してから開始します。
- reload はサーバーに SIGHUP 信号を送信し、構成パラメーターを再ロードします
- status は、サービスの現在のステータスを検出します。

pg_ctl ユーティリティの使用または使用可能なコマンドラインオプションの詳細については、次の URL で入手可能な公式の PostgreSQL コードドキュメントを参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/current/static/app-pg-ctl.html>

5.1.3 Controlling Server Startup Behavior on Windows

Windows サービスユーティリティを使用して、サーバーの起動動作を制御できます。更新するサービスの名前を右クリックし、コンテキストメニューから Properties を選択して Properties ダイアログを開きます。

Startup type フィールドのドロップダウンリストボックスを使用して、ホストの起動時に AdvancedServer サービスがどのように動作するかを指定します。

- Automatic (Delayed Start) を指定して、起動後にサービスコントローラーに開始するよう指示します。
- Automatic を指定すると、システムが起動または停止するたびにサーバーを起動および停止するようにサービスコントローラーに指示します。

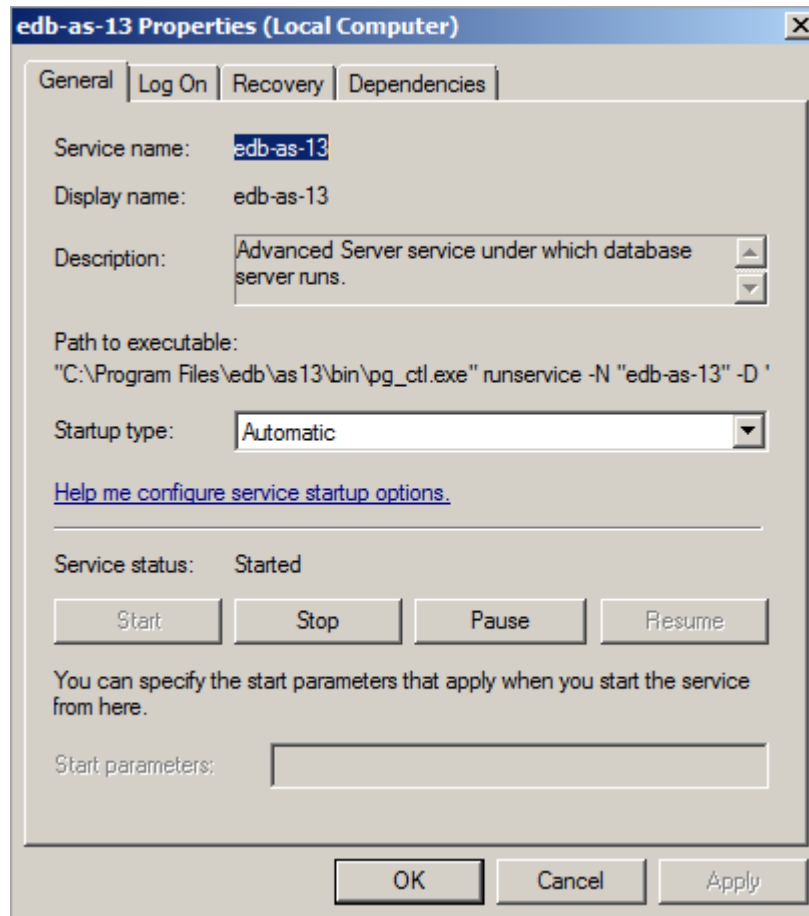


図 2 AdvancedServer の起動動作を指定する

- Manual を指定して、サーバーを手動で起動する必要があることをサービスコントローラーに指示します。
- Disabled を指定して、サービスコントローラーにサービスを無効にするよう指示します。サービスを無効にした後、変更を有効にするには、サービスを停止するかサーバーを再起動する必要があります。無効にすると、Startup type が Automatic (Delayed Start)、Automatic、または Manual にリセットされるまで、サーバーのステータスを変更できません。

第 6 章

Configuring Advanced Server

次の構成ファイルを変更することにより、AdvancedServer およびサポートするコンポーネントの動作を決定するパラメーターを簡単に更新できます。

- `postgresql.conf` ファイルは、AdvancedServer 構成パラメーターの初期値を決定します。
- `pg_hba.conf` ファイルは、ネットワーク認証および許可の設定を指定します。
- `pg_ident.conf` ファイルは、`ident` ベースの認証を使用する場合、オペレーティングシステムの ID（ユーザー名）を AdvancedServer の ID（ロール）にマップします。

`postgresql.conf` ファイルの変更および `pg_hba.conf` ファイルの変更の詳細については、EDBWeb サイトから入手できる **EDBPostgresAdvancedServerGuide** を参照してください。

<https://www.enterprisedb.com/edb-docs>

任意のエディターを使用して構成ファイルを開くか、Windows で EDB Postgres メニューをナビゲートしてファイルを開きます。

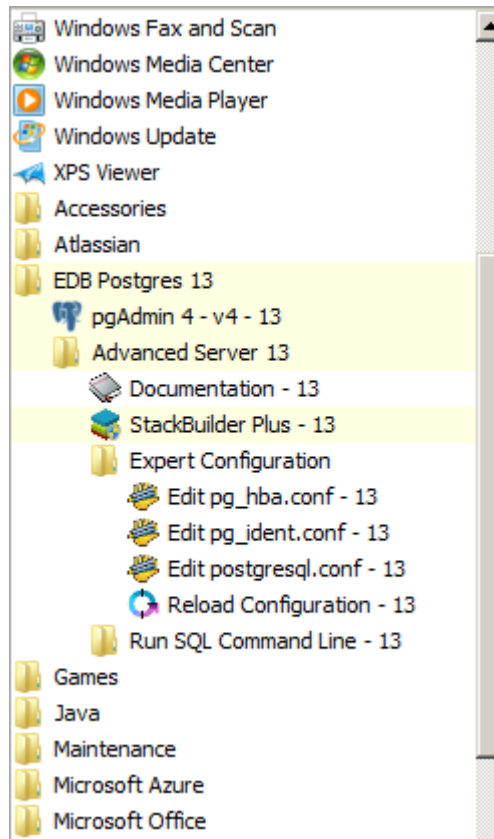


図 1 Windows システムメニューから構成ファイルにアクセス

6.1 Setting Advanced Server Environment Variables

グラフィカルインストーラーは、Windows ユーザーの環境変数を設定するタスクを簡素化するスクリプトを提供します。スクリプトは、現在のシェルセッションの環境変数を設定します。シェルセッションが終了すると、環境変数は破棄されます。環境変数が各シェルセッションに対して自動的に定義されるように、システム全体のシェルスタートアップスクリプトから `pgplus_env.bat` を呼び出すことができます。

`pgplus_env` スクリプトは、AdvancedServer のインストールプロセス中に作成され、インストール中に行われた選択を反映します。スクリプトを呼び出すには、コマンドラインを開いて次のように入力します。

```
C:\Program Files\edb\as13\pgplus_env.bat
```

`pgplus_env.bat` スクリプトが実行されると、次の環境変数が設定されます。

```
PATH="C:\Program Files\edb\as13\bin";%PATH%
EDBHOME=C:\Program Files\edb\as13
PGDATA=C:\Program Files\edb\as13\data
PGDATABASE=edb
REM @SET PGUSER=enterprisedb
PGPORT=5444
```

(次のページに続く)

(前のページからの続き)

```
PGLOCALEDIR=C:\Program Files\edb\as13\share\locale
```

EDB によって作成されたインストーラーを使用して PostgreSQL をインストールした場合、pg_env スクリプトは同じ機能を実行します。

```
C:\Progra~1\PostgreSQL\13\pg_env.bat
```

pg_env.bat スクリプトが PostgreSQL で実行されると、次の環境変数が設定されます。

```
PATH="C:\Program Files\PostgreSQL\13\bin";%PATH%
PGDATA=C:\Program Files\PostgreSQL\13\data
PGDATABASE=postgres
PGUSER=postgres
PGPORT=5432
PGLOCALEDIR=C:\Program Files\PostgreSQL\13\share\locale
```

6.2 Connecting to Advanced Server with edb-psql

edb-psql は、SQL コマンドを実行して結果を表示できるコマンドラインクライアントアプリケーションです。edb-psql クライアントを開くには、クライアントが検索パスに含まれている必要があります。実行可能ファイルは、AdvancedServer インストールの bin ディレクトリにあります。

次のコマンドとオプションを使用して、edb-psql クライアントを起動します。

```
psql -d edb -U enterprisedb
```

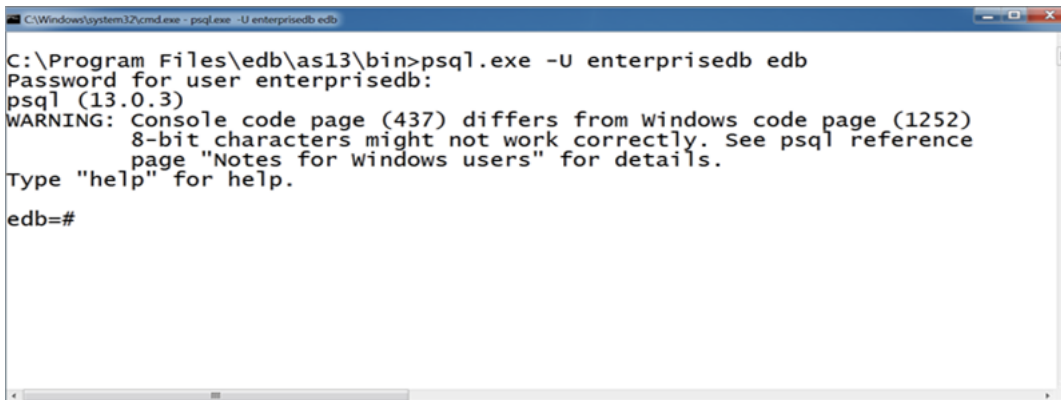


図2 サーバーへの接続

どこで:

-d は、edb-psql が接続するデータベースを指定します。

-U は、セッションに使用されるデータベースユーザーの ID を指定します。

対話型インストーラーでインストールを実行した場合は、EDB Postgres メニューから EDB-PSQL を選択して edb-psql クライアントにアクセスできます。クライアントが開いたら、セッションの接続情報を提供します。

edb-psql は、PostgreSQL コミュニティ psql へのシンボリックリンクです。コマンドラインクライアントの使用の詳細については、次の PostgreSQLCore ドキュメントを参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/current/static/app-psql.html>

第 7 章

Uninstalling Advanced Server

AdvancedServer をアンインストールした後、クラスターデータファイルはそのまま残り、サービスユーザーは持続することに注意してください。クラスターデータとサービスユーザーをシステムから手動で削除できます。

7.1 コマンドラインでの **AdvancedServerUninstaller** の使用

AdvancedServer の対話型インストーラーは、Windows ホストにある AdvancedServer またはコンポーネントを削除するために使用できるアンインストーラーを作成します。アンインストーラーは C:/Program Files/edb/as13 に作成されます。アンインストーラーを開くには、スーパーユーザー権限を引き受け、アンインストーラーを含むディレクトリに移動して、次のように入力します。

```
uninstall-edb-as13-server.exe
```

アンインストーラーが開きます。

Entire application（デフォルト）を削除するか、Individual components の横のラジオボタンを選択して削除するコンポーネントを選択します。Individual components を選択すると、ダイアログが開き、削除するコンポーネントを選択するよう求められます。選択したら、Next をクリックします。

AdvancedServer に依存するコンポーネントを削除することを選択した場合、それらのコンポーネントが最初に削除されます。Yes をクリックして、続行することを確認します。

ソフトウェアが削除されると、進行状況バーが表示されます。アンインストールが完了すると、Info ダイアログが開き、AdvancedServer（および/またはそのコンポーネント）が削除されたことを確認します。

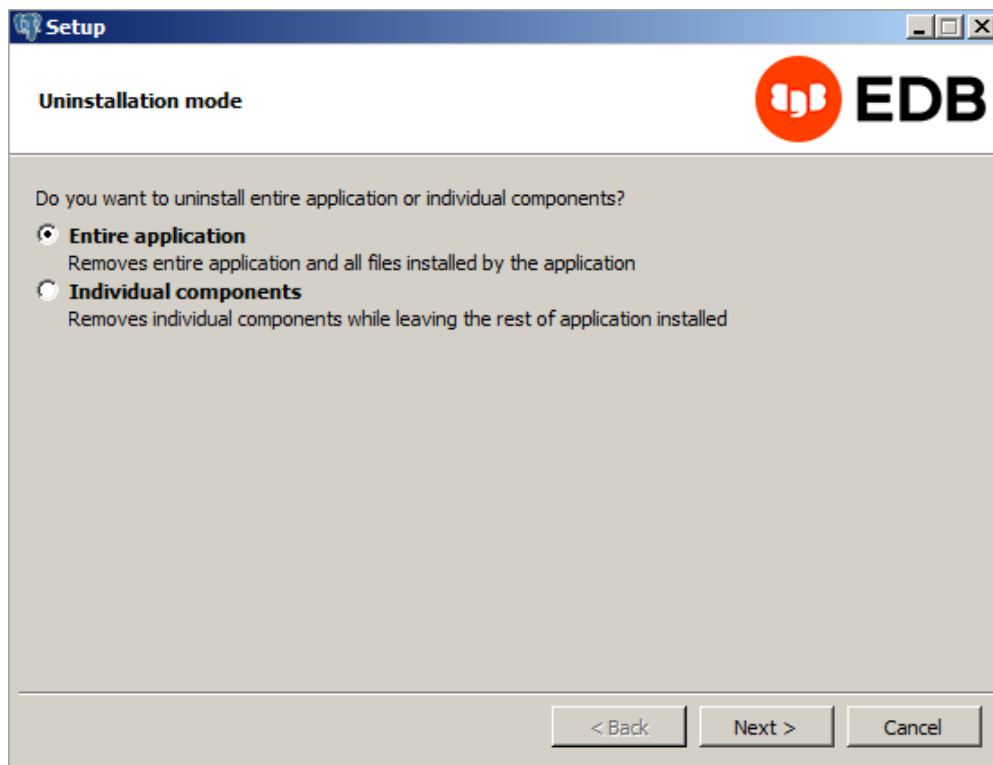


図 1 *AdvancedServer* アンインストーラー

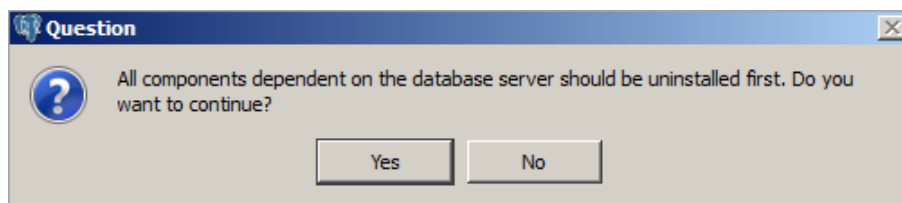


図 2 依存コンポーネントが最初に削除されることを認めます

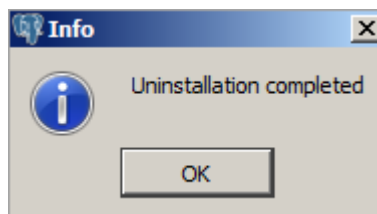


図 3 アンインストールが完了しました

第 8 章

Conclusion

Windows 用 EDBPostgres™AdvancedServer インストールガイド

著作権 ©2007-2020EnterpriseDBCorporation。

無断複写・転載を禁じます。

EnterpriseDB®Corporation

34CrosbyDrive、Suite201、Bedford、MA01730、アメリカ

T+17813573390F+19784671307E

info@enterprisedb.com

www.enterprisedb.com

- EnterpriseDB および PostgresEnterpriseManager は、EnterpriseDBCorporation の登録商標です。EDB および EDBPostgres は、EnterpriseDBCorporation の商標です。Oracle は、Oracle、Inc の登録商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標です。
- EDB は、存在する場合、EDB 製品のログオン UI の設計、コーディングのベストプラクティスの確立、レビュー、および入力検証の検証を行います。EDB は追加の入力コンポーネントに対して同じアプローチに従いますが、製品の性質上、限定された検証が可能な信頼できるユーザーによって入力および送信されるフリーフォーム SQL、WMI またはその他の文字列を受け入れる必要がある場合があります。このような場合、ユーザーが誤った入力や危険な入力を禁止することはできません。
- EDB は、将来、認証された信頼できるユーザーからのフリーフォーム SQL、WMI またはその他の潜在的に危険な入力を受け入れる製品に機能を追加する権利を留保しますが、そのような機能はすべて、可能な限り最小のリスクを提供するように設計およびテストされます可能であれば、スーパーユーザーまたは同等の特権が必要です。
- EDB は、すべての潜在的な脅威を予測できることを保証しないため、すべての潜在的な脆弱性が対処または検討されたことを完全に保証することはできません。

索引

Conclusion, 55
Configuring Advanced Server, 49
Connecting to Advanced Server with edb-psql, 52
Connecting to Advanced Server with the pgAdmin
4 Client, 41
Controlling Server Startup Behavior on Windows,
47

Installation Troubleshooting, 39
Installing Advanced Server with the Interactive
Installer, 5
Invoking the Graphical Installer from the
Command Line, 22

Managing an Advanced Server Installation, 45

Performing a Graphical Installation on Windows,
7
Performing an Installation with Limited
Privileges, 24
Performing an Unattended Installation, 23

Reference - Command Line Options, 26
Requirements Overview, 3

Setting Advanced Server Environment Variables,
50

Uninstalling Advanced Server, 53
Using pg_ctl to Control Advanced Server, 47
Using StackBuilder Plus, 35
Using the Windows Services Applet, 46